山道者にも參じ、月舟宗林（＊—一六八七）に嗣法した人、護法の念厚く、護法集等著書多く、獨庵獨語は流れて明に入り、鼓山（くざん）の爲霖道霈（一六一五—一七〇二）が序文評註を作り、兩人の間には文通もあつた。其他の著書も多い。梅峯竺信も宗統復古の恩人、寒巖派仁叟淨熙十六代の法孫、後に大和興禪寺を開き、洞門劇談、林丘客語の著があり、弟子法孫もある。興聖寺は師席であるが、興聖寺は曾て叡山衆徒に破却せられて後、道元禪師の弟子義準がそこから木犀を大佛寺に送つたといはれても、其後恢復もなかつたか、慶安元年（一六四八）永井尙政が萬安英種（一五九一—一六五四）を請して宇治の地に再興し、英種は第五世となつたから、世代は三代はあつたのである。萬安は宗風の衰へたのを慨き、復古の精神の强かつた人であるが、弟子懶禪舜融（一六一三—一六七二）、其弟子龍蟠松雲（一六〇五—一六八二）が第六代第七代で、從つて龍蟠の弟子梅峯は第八代で、萬安の精神を承けて居るのである。連山交易も萬安英種の下で修行し、通幻派下了庵派の華叟第二十一代の法孫、常に護法を念じ、祖典の刊行註釋に努めて居た。又天桂傳尊の弟子中では象山問厚が玄樓奥龍（一七二〇—一八一三）を出したが、機鋒峻峭、辯才無礙で、狼玄樓と呼稱せられ、當時攝津光明寺佛通（＊—一八二五）が峻烈で、虎佛通と呼ばれたのと相對する。玄樓には著述も多いが、弟子として風外本光（一七七九—一八四七）があり、浪華圓通寺、三河香積寺に住し、後に浪華烏鵲樓に退いた。玄樓の遺風を受けて雲衲を接得し、突堂（一八〇五—一八七九）、活宗（一八一六—一八八五）、坦山（一八一九—一八九二）等を出

し、近代兩大本山の貫首十數名が此會下で心地了得をなした程で、玄樓、風外共に近代の偉匠である。又天桂傳尊以後には指月慧印、面山瑞芳が出でて、宗乘研究が大に振ふに至つた。指月慧印（＊—一七三一—一七六四）は通幻派天眞自性二十一代の法孫、武藏に西光寺、西光院、養光寺を開いて三光老人と稱し、著書頗る多く、凡て不能語と題し、識見穩富、博學廣智で、祖錄宗典を解明し、天桂、面山と並び稱せられる。弟子瞎道本光（＊—一七七三）は川崎養光寺を繼ぎ、正法眼藏、五位を參究したが、指月と同じく、駒込吉祥寺の旃檀林で講じ、曹洞二師錄の編集には非難せられるべき點もあるが、洞山曹山の參究には效がある。旃檀林は當時の曹洞宗の學林で、全國のものが入林し、湯島聖堂の學者も出入した程である。面山瑞芳（一六八三—一七六九）は太源派瑚海仲珊十八代の損翁宗益に嗣いだ人。損翁（一六四九—一七〇五）は極めて孝心深く、雲遊の間にも每歲二回、母の許に歸り、元祿十四年（一七〇一）九十一歲で死するまで奉養し、而も月舟、卍山に參じ、永平の正宗を擧揚するに努めた人。面山は此風を承けて、一代を永平祖道の發揚に捧げ、正法眼藏を始め、宗典の殆ど凡てを注解提示し、東奔西走、敎化にも盡くし、著述甚だ多く、天桂が正法眼藏を研究した後に出でて、更に深く廣く究めしめるに至つた。弟子門葉甚だ多く、現今に及んで居る。又千丈實巖（一七三二—一八〇三）は通幻派普濟善玖十六代の法孫で、宗乘祖錄の研究に努め、著述も多く、更に洞水月湛（一七三八—一八〇三）は特に洞山の五位に參ずること四十年、五位顯訣

元字脚を著はし、其他の著述もある。猶注意すべきは讃岐見性寺の德巖養存（＊—一七〇三）で、これは石屋眞梁十六代の法孫であるが、楞伽、楞嚴に注し、永平衆寮箴規然犀等を著はし、又五家辨正を公にしてシナに於ける五家七宗の法系に關する辟說、虎關師錬の偏見を訂して、史實に忠實に、潙仰、臨濟の二宗が馬祖系統に出で、曹洞、雲門、法眼の三宗が石頭系統に出でたものなることを明かにした。既に清朝に於て正しい說が現はれたが、我國の偏見を訂した點は效績がある。以上の人々の外にも宗乘研究者は多く、從來あまり顧みられなかつた高祖の研究が盛んになつた點は注意すべきである。又實踐的方面として、玄透卽中（＊—一八〇七）が努力した人として注意すべく、寛政七年（一七九五）永平寺に晉住し、幕府の許可を得て、穩達、俊量に正法眼藏開版の幹事を命じて刊行せしめたが、これ最初の刊行であり、又永平清規を上梓し、永平清規を行うて宗內に之を遵守せしめ、紛爭もあつたが、よく之を行はしめて行事を整はしめた。玄透卽中は明峯派默子素淵の弟子頑極官慶（一六六三—一七六八）の弟子である。此外に多數の學者實行家があつて、曹洞宗は講學に實踐に最も注意すべき狀態である。卍山の弟子に明州珠心（一六六一—一七二四）があつて大乘寺を繼ぎ、其弟子密山道顯（一六五二—一七三六）が又大乘寺を繼ぎ、密山の弟子慈麟玄趾（一六八〇—一七六四）も後に大乘寺を董するが、其弟子に宜默玄契がある。玄契は洞山語錄を編し、五家語錄中のものに優つたものを出し、又曹山語錄を編し、これは大體五家語錄中のものと同

一といへるのであるが、曹洞宗徒として、此二師の語錄を出したのは其效沒すべからざるもので、永く感恩せらるべきであるが、不幸にして指月慧印と瞎道本光との師資が、其恩惠によつて之を講じて後、編集替へをなし、曹洞二師錄とし、玄契の名をば序文に留めるのみで殆ど隱すことになり、從つて玄契の效を覆ひ終つた。甚だ遺憾なことであるが、玄契は識見卓絕で、自ら寛保元年（一七四一）禪林瓢瓦を著はし、獨庵、一線、萬回、天桂諸師を彈駁した。彈駁が果して正しいか否かは明かでないが、ともかくかかることが切蹉琢磨に資することはいふまでもない。獨庵は獨庵玄光、天桂は天桂傳尊であるが、一線萬回は一線と萬回とを指すのか、一線萬回を指すのか、明かにせられない。一線は玄文元年（一七三六）に證道歌直截二卷を、延享元年（一七四四）に洞宗通翼三卷を撰し、後者は其上卷が寛延二年（一七四九）に刊行せられたし、又萬回一線としてならば元文三年（一七三八）に青鷄原夢語三卷を撰したことが知られる。

東皐心越　猶一ついふべきことは東皐心越の渡來である。名は興儔、字は心越、東皐は號である。心越（一六四二—一六九六）は杭州の人、翠微闊堂（大文）に法を得たが、芙蓉道楷（一〇四三—一一一八）の弟子淨因自覺（＊—一一〇五）第二十二代の人で、我國の曹洞宗の正系は芙蓉の他の弟子丹霞子淳（＊—一二九）の系統であるから、心越は我國では曹洞傍系である。長崎興福寺の明僧澄一（ミン）が席を讓らんと欲して招いたので、延寶五年（一六七七）に長崎に來たが、異宗の僧の誣言の爲に幽閉せられ

たのを、水戸の德川光圀が聞いて、廟堂に論奏したので許され、京都に出で、水戸に來て、光圀が天德寺を改めて祇園寺となしたのに請せられ、開山第一祖となつた。爾來曹洞宗の人々との道交があり、武藏、相模を吟遊し、弟子に吳雲法曇、天湫法澧があつて寂し、吳雲は祇園寺を繼ぎ、又常陸清水寺二世で、清水寺に居た時に面山瑞芳が行脚參問したことがあるし、其弟子蘭山道昶が祇園寺三世、又天聖寺に居た時面山が參問した。法澧は祇園寺六世となつたが、心越の法系は盛んではない。

九　黃檗宗の傳來　當時新たに黃檗宗が傳來した。當時は明の禪僧の長崎に來たものがあつたが、それは早くから明人が來て居て、興福寺、福濟寺、崇福寺などが建てられ、それに住する明僧が招かれたからである。慶安二年（一六四九）黃檗隱元の弟子蘊謙が渡來して福濟寺に居たし、同四年には同門の也嬾が崇福寺の請によつて渡來せんとして、不幸風浪の爲に海上で沒した。又慶安三年には南山道者超玄が來て崇福寺に住し、盤珪永琢、獨庵玄光、默室焉智（＊―一七二三）、普峰京順（一六二〇―一六九五）、悅巖不禪（一六一六―一六八一）、鐵心道印（一五九三―一六八〇）、靈峰道悟（一六三六―一七〇九）、潮音道海（一六二八―一六九五）などを接得したことが知られるが、殊に盤珪も獨庵も此人によつて徹するを得たのであり、殊に後者には互信禪師の遺照並びに道者が受けた印證の偈を付して法信となした。互信は雪峰互信で、黃檗隱元と同門である。道者は六年程で歸國したが、承應

元年（一六五二）、明僧、興福寺逸然、妙心寺龍溪性潛が書を送つて、黃檗隱元の渡來を請ひ、再び書を送り、更に自恕、古石等數人を遣はして懇請し、翌年又請したので、遂に承應三年（一六五四）黃檗山を弟子慧門如沛に讓つて渡來し、五月出發、七月長崎に到著した。隱元（一五九二―一六七三）は諱は隆琦、二十九歲で黃檗山で出家し、諸國を行脚して知名の師に會ひ、四十七歲で大事を了し、當時の黃檗山の住持で、臨濟宗の楊岐宗無準師範十五代の法孫費隱通容（＊―一六六一）に嗣法した人である。故に法系としては圓爾辨圓、無學祖元、兀庵普寧、大拙祖能等と異なる所はなく、無準師範以前をいへば、南浦紹明とも同系となるから、臨濟宗というてもよいのであり、楊岐宗というても差支ないのであるが、我國の寬永十四年（一六三七、崇禎十年）黃檗山萬福寺に住し、渡來後に宇治に黃檗山萬福寺を建てて、禪法を鼓吹したから、隱元の系統は黃檗宗と稱せられるのである。臨濟宗の一支派に過ぎないことはいふまでもない。隱元は興福寺、崇福寺に住し、龍溪の請によつて、又攝津の普門寺に住して後、萬治元年（一六五八）江戸麟祥院に入り、將軍家綱に謁し、同三年山城宇治に黃檗山萬福寺を營み、寬文元年（一六六一）入寺し、後水尾上皇に法要を奏し、住山四年にして木庵に繼がしめ、松隱堂に退いたが、來朝以來鐵心道印、龍蟠松雲（一六〇五―一六八二）、惟慧道定（一六三四―一七一三）、無得良悟、丹嶺祖衷（一六三四―一七一〇）、桃水雲溪（＊―一六八三）等、其他濟洞の諸師に接し、寂後、大光普照國師の諡號があつた。黃檗宗は前述の如く臨濟宗で、而

も楊岐宗、從つて從來の臨濟宗以外のものではないが、然し臨濟宗と異なる所は、往生淨土を說き念佛を行持とし、念禪一致に立つ點に存する。既に唐宋以來、禪宗の一部に念禪一致の說が行はれて居たが、殊に明代では、諸宗合同の傾向が多く、各宗獨自の宗風に始終するものが鮮なかつた。從つて黃檗山中に於て念禪一致が行はれて居たから、それが其まま傳來せられたのであり、而も長髮長爪の如き異風までが何等改められる所なく傳へられて居る。然し、黃檗宗は禪が根本となつて居るものであるから、念佛往生を談ずるにしても、己身彌陀、唯心淨土と考へて、萬法唯心、心外無別法といふ禪宗一般の取る道理に立つのであり、決して淨土系統のいふ如き指方立相ではない。これは聖道門と淨土門との相違である。又長髮長爪は、既に南宋以來禪者の間に行はれて居たことで、恐らく禪は敎と異なるといふ所を、形の上に表はしたのがもとで、その風習が當時の黃檗山にあつたので、其まま傳來したのであらう。而も宇治の萬福寺內は一切のことが悉く明風であつて、それは現今にまで及んで居る。

隱元の弟子は多かつたが、多くは明人で、我國人としては龍溪性潛（一六〇三—一六七〇）、獨照性圓（一六一七—一六九四）、獨本性源（一六一八—一六八九）、鐵眼道光（一六三〇—一六八二）、潮音道海（一六三八—一六九五）などである。龍溪は已に妙心寺に住して居たから、非難を受け、寛文九年（一六六九）黃檗宗に轉じ、後水尾天皇の崇敬を受け、大宗正統禪師の號を賜はり、黃檗山准世代である。然し、黃檗山第二代は木庵

性瑫（一六一一—一六八四）で、木庵は初め鼓山の爲霖道霈の師永覺元賢（一五七八—一六五八）に提撕せられ、その下で契悟し、後に費隱、隱元に參じて、隱元に嗣法し、隱元渡來の翌年來朝し、寛文四年（一六六四）黃檗山に住し、翌年戒壇を開いて、受戒者五千人にも及んだが、江戸に出でて將軍に謁し、黃檗山に朱印、白金の寄附を受け、殿堂を增築して美觀を增し、紫衣を賜はり、爲に黃檗山は此人によつて隆盛となつた。又靑木端山なるものが、江戸白金に紫雲山瑞聖寺を建て、請して開山となしたので、再び江戸に來たが、弟子も甚だ多く、著述も存する。木庵と交つたものとしては曹洞宗の無得良悟、丹嶺祖衷、德翁良高、桃水雲溪、案山吉道（一六〇八—一六七七）、默玄元寂（一六二九—一六八〇）、化霖道龍（一六三四—一七二〇）、明堂正智（一六四〇—一六七三）、雲山愚白（一六一九—一七一二）などが數へられるから、曹洞宗のものと親しかつたのである。この木庵と同じく法系の榮えるのは卽非如一（一六〇六—一六七一）で、明曆三年（一六五七）來朝し、崇福寺に住したが、此時、木庵は福濟寺に住して居たから、世に二甘露門と稱せられた程であつた。後隱元の化を助け、寛文四年（一六六四）歸國せんとし、途次豐前侯に請せられて、福壽寺を開いて開山となり、間もなく、法雲明洞に讓つて、崇福寺に退いた。木庵は黃檗山を法弟慧林性機（一六〇九—一六八一）に讓つたが、慧林は隱元と共に渡東し、寛文年中に、靑木侯が攝津に佛日寺を開いて、隱元を開山となした時、隱元は慧林をして住せしめた。慧林は延寶八年（一六八〇）黃檗山に入つたのであるが、翌年寂し、獨湛性

瑩（一六二八—一七〇六）が第四代となつた。獨湛も隱元と共に來り、寛文四年（一六六四）遠州寶林寺を開き、住すること十八年、又、上野國瑞寺を創し、そして天和二年（一六八二）に黃檗山に入つたのである。黃檗山には十一年間住したが、常に阿彌陀經を讀むこと日に四十八遍、佛を禮すること三百乃至五百回、また、佛號を持すること暫くも停まなかつた程であつたから、黃檗山は遂に衰運を來したといはれる。

木庵は瑞聖寺を鐵牛道機（一六二九—一七〇〇）に付したが、鐵牛は我國人で、隱元に崇福寺で參じ、江戸麟祥院に住し、木庵の印可を受け、延寶三年（一六七五）に瑞聖寺に入つたのである。寺を開くこと五所、大慈普應國師の諡があつた。慧極道明（＊—一七二一）が其跡を繼ぐが、慧極は、鐵牛、潮音と共に、木庵の三傑と稱せられる。潮音道海は道者にも、隱元にも參じ、木庵に嗣法し、江戸に出でて大慈庵を創し、感化廣く、館林侯が廣濟寺を開いて請したので、寛文九年（一六六九）入山し、木庵を開山とし、自ら二世となつたが、これ關東に於ける黃檗宗の寺の最初で、瑞聖寺の開創の前年である。潮音は神儒佛に通じ、著述多く、大成經破文答釋などがあり、林羅山、熊澤蕃山の排佛論を破して、その爲の著書もある。寺を開く二十餘、弟子も甚だ多く、六十三人と稱せられる。鐵眼道光も嗣法は木庵の法で、寛文元年（一六六一）大坂瑞龍寺を中興し、中興開山となり、寛文八年、大坂月江院で起信論を講じた際、大藏經開版の志を述べ、其際觀音寺妙宇

尼から銀一千兩の喜捨を受け、爾來東奔西走して法財を募り、天和元年（一六八一）刻藏の功を了した。所謂鐵眼版又は黃檗版大藏經である。延寶六年（一六七八）後水尾法皇に新刻大藏經を進むる表を上つたが、此時は、未だ刻藏全部が出來たのではなく、天和元年に出來上つたので、之を幕府に納める爲に江戸に下つた。然し、此際畿內に飢饉の起つたのを聞いて、急いで大坂に歸り、天和二年正月瑞龍寺に著して、窮民を救濟し、救世大士と稱せられた。救濟は刻藏以後のことである。刻藏には弟子寶洲道聰の助力が頗る大であり、此人は鐵眼の行實を著はした。

此の如くして關東では勢を張つたが、同時に黃檗山でも、第五代高泉性潡が入山するに及んで、復興した。高泉（一六三三—一六九五）は黃檗山慧門如沛の弟子、寛文元年（一六六一）隱元に召されて渡來し、龍溪と交はり宮中にも召され、延寶三年（一六七五）扶桑禪林僧寶傳十卷を著はして上り、山城佛國寺を開き、靈元上皇の勅額を受け、元祿五年（一六九二）黃檗山に晋住し、紫衣を賜はり、同八年江戸に出でて將軍綱吉に謁したが、黃檗宗の中興で、著書多く、東國高僧傳十卷、東渡諸祖傳二卷、續扶桑僧寶傳三卷もある。右の四部は師蠻の蒐集した所を借りて編した所が多く、而も舛差甚だ多いというて、師蠻が非難して居る。大圓廣慧國師の諡號があつた。弟子もあるが、中に於て了翁道覺（一六三〇—一七〇七）は隱元にも謁し、高泉に嗣法し、寛文五年不忍池畔に藥舖を開いて錦袋圓を賣り、利益を社會事業に費し、東叡山に勸學寮を興し、高德老儒を講義せし

め、勸學院權大僧都に任ぜられ、また江戸の棄兒を養育し、飢饉に救濟し、黃檗山內に報恩の寺を建て、台、密、禪の三道場に大藏經を奉獻する等頗る盡くす所があり、弟子もあつて、其法系が繼續する。

黃檗山に於ては、高泉の後は、卽非如一の弟子千呆性佺（＊—一七〇五）が住し、次は木庵の弟子悅山道宗（＊—一七〇九）、獨湛性瑩の弟子悅峯道章（＊—一七三四）、千呆の弟子靈源海脈（＊—一七一七）、悅峯の弟子旭如蓮昉（＊—一七一九）、木庵の弟子東瀾元澤の資獨文淨炳（＊—一七三五）、旭如の法兄杲堂元昶（＊—一七三三）、其弟子竺庵淨印（一六六三—一七五六）を經て第十四代龍統元棟に至つて、初めて我國人が住持となつた。享保年間（一七一六—一七三五）に、幕府は請唐僧資銀として一萬兩を給し、黃檗山住持を明から請することの慣例を維持せしめたが、ことは容易でなく、又關東方面に法化が揚つたから、一山の勢力は振はなくなるなど、種々なる事情で、幕命によつて竺庵は元文四年（一七三九）退隱し、嶺冲、雪巢、泰州、百拙、實門、翠峯等が相共に一山を監し、同五年（一七四〇）龍統が幕命で住するに至つたのであるが、龍統は其時已に七十八歲であつた。龍統は慧極道明の弟子で、住山以來一山の興隆を圖り、延享元年（一七四四）大鵬正鯤に讓つた。大鵬は木庵の弟子慈岳道琛四代の法孫で、享保の頃渡東した明人である。次は隱元の弟子獨本性源の孫弟子百癡元拙（＊—一七五三）、木庵の弟子雲巖道巍に嗣いだ祖眼元明（＊—一七五七）が相繼ぎ、寶曆八年（一七五八）大鵬再住し、

次の仙岩元嵩（＊—一七六三）は隱元の弟子大眉性善の孫弟子で淸人、又其後を承けた伯珣照浩（＊—一七七六）は靈源海脈の孫弟子、大成照漢（＊—一七八四）は其弟子で淸人であるが、次の第二十二代格宗淨超（＊—一七九〇）は仙岩の同門、又は同門衝天元統の弟子で、我國人である。爾來我國人が住持となるのであるが、然し、敎勢振はず、衰運を辿るのみといはれる。僅かに隱元の弟子獨吼性獅五代の法孫良忠如隆（一七六三—一八六五）が第三十三代となつて、諸國を巡遊し、道俗雲集して法化を受け、之によつて宗風が振うたので、黃檗宗再興と稱せられるものがあるのみといへる。

一〇　日蓮宗の狀況と分派

日蓮宗は天文の法難以後恢復に努め、信長の爲には、日陽、日乘などの崇信せられたものもあり、一般に武將の歸向を受けて、京阪地方には勢を得、文祿（一五九二—一五九五）の頃に、本圓寺日禎は加藤淸正等の信仰によつて、寺門を張るに至つた程である。日禎の弟子に日尊があり、叡山に上つて天台を學び、日統、日生（一五五三—一五九五）等と交はつたが、日統は下總飯塚に歸つて講席を開き、そこへ日生が來て之を助け、日統の寂後、同國飯高に講場を設けて、天台三大部を講じ、日尊が又京都より來て、之を助けて盛大となつた。之を飯高談林といふが、談林の最初であり、これ天文の初め頃（一五七三）である。日生は京都立本寺日經の弟子で、後に飯高を日尊に讓り、天正二年（一五七四）に歸洛し、又松ヶ崎談林を興した。飯高と松ヶ崎とを根本談林と稱するが、後に之に倣ふものが多く現はれるに至つた。日生門下の日圓は中

村談林を、同門の日祐は小西談林を開き、かくして後には一致派に關東八談林があるに至つた程である。日尊は本門寺、妙本寺に住して教線を張り、同時に久遠寺に第十七代日新（＊—一五九二）があつて、德川家康の歸依を得て居たから、相共に、關東の日蓮宗をして勢あらしめるに至つた。蓋し、日蓮宗の學事の盛んとなつたのは一は叡山の燒打によつて逃れた天台宗の學者が、日蓮宗に投じたことにもあるのであつて、實際上、當時の日蓮宗の學事は天台の教籍の講究で、開祖日蓮の教學の闡明ではなかつた。天台宗の覺靜、惠俊は堺の妙國寺日珖（一五三—一五九八）を訪うて、學事を談じ、日蓮宗に轉宗して、覺靜は名を日球、惠俊は日詮（＊—一五七九）と改め、殊に日詮は日珖、日諦（＊—一五八五）と共に、妙國寺の傍の學舍に於て、毎月交代に主となつて、法華文句を講じ、之を三光勝會と稱した。此三人に師事して三大部に通じたものに日重（一五四九—一六三三）がある。日重は京都本圀寺の學僧で、堺で學び、奈良にも遊學して歸京、本滿寺に住して天台を講じ、本圀寺日禎と圖り、本圀寺内に求法院を興して、三大部の講場となしたが、これが六條談林、又は求法院談林、である。之に倣うて、日重の弟子の日乾（一五六〇—一六三五）は、寛永四年（一六二七）に洛北に鷹ヶ峯談林を創設し、又同門の日遠（一五七二—一六四二）は慶長九年（一六〇四）に身延山に西谷談林を開き、其後一致派の京都六談林が出來るに至つた。之に對して勝劣派にも關東と關西とに七談林が興つて、學事が盛んとなるが、談林には凡て數部が設けられ、數十年を經て、

それぞれの學階が得られるのであり、住職の資格に關係がある。

日重は學德兼備の高僧で、六條談林には來學者甚だ多く、從つて日重の感化は頗る深かつたので、慶長四年（一五九九）、飯高談林から招聘せられたが、辭して受けず、弟子日遠をして代つて往かしめ、又同七年、身延山久遠寺から特に晋住を請はれたが、同じく固辭し、弟子日乾をして代らしめた。日乾と日遠とは相議して、後に日重を久遠寺第二十代に追尊した。日乾は性相の學にも通じ、慶長七年四十三歳で久遠寺第二十一代となつたが、期年にして日重の許に還り、同十四年再び請せられ、入つて住し、一山の制規を整へて經營に盡力し、日新の遺圖を承けて興隆を圖つた。然し同十九年退いて京都に歸り、鷹ヶ峯に庵居し、學徒相集まつたので、遂にそれが談林となるに至つた。日遠は二十八歳で飯高談林の化主となり、慶長九年久遠寺第二十二代となり、幾もなくして、辭して大野に隱退し、元和元年（一六一五）再び久遠寺に入り、住すること僅かに一年であつたが、西谷談林を興し、學風を振起し、再び大野に退き、慕命で本門寺、妙本寺に住し、後鎌倉經ヶ谷に幽棲して居た。日重、日乾、日遠によつて日蓮宗の教勢大に振ひ、關東、關西共に融和して面目を一新せしめたから、之を中興の三師といふ。

然るに日蓮宗の學事が天台の講究であつた間に、漸次開祖の事蹟に意を向けることになつて、其結果の一とも見られ得る事件が起つた。不受不施派を起した日奥（一五五五—一六三〇）、同講門派を

起した日講（一六二六―一六九八）が卽ちそれである。日奥は京都妙覺寺日典の弟子で、文祿元年（一五九二）妙覺寺に住したが、同四年九月、豐臣秀吉が大佛殿落慶の式典として、妙法院に千僧供養を營み、天台、眞言、禪、律、淨土、日蓮、時宗、眞宗から各百僧を請した時、日奥はそれに赴くことを拒絶した。不受不施は、信じない者からは供養を受けず、又法を施さないといふことで、主として信長の壓迫の反動として、以前から唱へるものがあり、關東では日惺、日尊、日詔、日忠等、關西では日奥、日經等が之を主張し、國恩と雖、其供養を受けず、其實例模範として開祖が鎌倉幕府の請待を却けた以來の歷代諸高僧の事實を擧げるが、此時には豫め本圀寺で千僧供養に出づべきや否やを議したのである。其時にも、日奥獨り出仕せずと主張し、當日其旨を陳奏した。此の如きが不受不施の義であるが、日重等は供養に列したのみならず、日奥の主張を異端邪說として排擊し、受不施の義を採つた。日奥は遂に妙覺寺を出でて、丹羽小泉に隱棲したが、慶長四年（一五九九）、德川家康に命ぜられ、大坂城で、妙顯寺日紹、妙國寺日統の受不施義と對論した。然し、日奥は自說を枉げず、不受不施義を固執したから、家康之を邪義として、同五年日奥を對島に配流した。配處に於ても、不受不施義を守つたから、衣食を得ることなく、飢寒に迫られ、僅かに草衣木食し、辛苦を嘗めること十三年、京都所司代板倉勝重の斡旋で赦されて、慶長十七年（一六一二）京都に歸り、再び妙覺寺に住した。幕府から不受不施義を許

されたとも傳へるが、此時日奥は四十七歲の分別盛りで、靜かに疲軀を養ひ、前年の如くには抗諍しなかつたのみで、許可については明かでなく、恐らく主張するを禁じなかつたのみであらう。其後、この不受不施義は、日乾、日遠等が極力排擊したにも拘らず、之を主張するものが絕えなかつた。寬永二年（一六二五）武藏諸宗の僧が增上寺で諷經した時、日蓮宗の者は加はらなかつたといはれ、又將軍秀忠の夫人淺井氏の葬禮に際し、本門寺、妙本寺の兩寺を董せる日樹が、其布施を受けず、而も身延山衆の之を受けたのを非とし、極力排擊して、不受不施義を主張せる如きは卽ち其實行である。日樹は寬永五年（一六二八）以來日重門下の諸學僧に抗して居たので、不受不施と受不施との論が喧しくなつたのである。當時學德高いといはれた中村談林の化主日賢が日樹に黨し、續いて小西、平賀の諸談林の日領、日弘、日進、日充等も日樹、日賢に左袒したので、關東諸談林には不受不施義が流行した。久遠寺第二十六代日遲（＊―一六四八）は日遠の弟子で、此點について大に憂ひ、日遼等と共に、これが鎭靜を日乾、日遠にも謀り、寬永六年（一六二九）、遂に異端邪說として、幕府に訴へるに至つた。翌年二月幕府は對論せしめて、日樹、日賢を審問し、日乾、日遠、日遲の言ふ所を容れ、翌年（一六三〇）四月、日樹を信州伊那に流し、日賢、日弘等を追放した。日奥は、此の如き時、日樹、日賢に應じ、書を渡して邪義を申し立て、幕命に背いたといふので、再び對島に流罪となつたが、其三月十日妙覺寺で寂した。

同時に、不受不施義の唱導は禁ぜられた。

然るにも拘らず、この不受不施義は關東關西に其主張者を有し、寛文年中（一六六一―一六七三）には京都妙覺寺、堺妙國寺、小湊誕生寺、雜司ヶ谷妙法寺などに流布し、日講によつて又盛んとなつた。日講は日奥寂後六年にして、十歳で、妙覺寺に於て出家したから、相傳の説を採つたのであり、關東諸談林に於て、日述、日院等が、悲田派、恩田派などと稱して、不受不施の義を採り、日講と相應じた。日暹の弟子久遠寺第二十七代日境（＊―一六五九）之を憎み、幕府に訴へたが、中途入寂したので、日述等の與黨が盛大となつたのである。寛文五年（一六六五）幕府は特に寺領の土地及び田園等を以て、幕府の供養たるものとして、其旨を日講、日述、日院等に告げた。翌年日講は守正護國章を著はして幕府に上り、以て不受不施の義を明かにし、供養悲田でも不信者から受けない態度を取り、他方には寺領の土地田園は國主の仁恩に出でた恩田とせば所謂供養なるものでないから、受けても差支ないが、供養は受けないことを述べて、日述、日院等上書して陳したが、幕府は久遠寺第二十八代日奠（＊―一六六七）の請を容れて、日講、日述、日院等を審問し、日講を日向佐土原に配流し、日述、日院等をも流罪に處した。日講は配所にあること三十餘年で寂し、日述、日院等も配所で寂した。日講は講門派、日述、日院は恩田派といはれる。此外にも不受不施義を採つて罰せられ、又改めたものもあり、元祿の頃（一六八以後）に

も、日講の説によつて、幕府の下される土地田園は悲田であつて供養でないとなして、不受不施義を固執するものがあつたから、身延山日脫（＊―一六九八）、本門寺日現の訴へにより、元祿四年（一六九一）悲田派を禁じたが、悲田派は日明、日禪等の派である。寶永三年（一七〇六）には三鳥派を禁じ、享保三年（一七一八）三鳥派の祖惠遠を配流したこともある。明治九年日正が政府に請ひ、日奥の遺風を繼いで不受不施派の公稱が許され、同十五年日心の請によつて不受不施講門派の別立が許された。前者は岡山縣妙覺寺を本山とし、後者は同本覺寺を本山とする。同じ不受不施義で別立となるについては、本尊義の異説の爲であるといはれる。日奥は法本尊論を採り、日講は日奥及び其門下日堯、日雅等と説を異にしたといはれる。法本尊は曼荼羅の妙法蓮華經の五字を其まま本尊と見るもの、之に對し、人本尊論を説いたのは元政で、人本尊は曼荼羅の總體が本地釋尊の全體と見るものであるといはれる。元政（げんせい）は字で、名は日政、自ら好子と號した人である。元政（一六三―一六六八）は二十六歳で出家して妙顯寺日豐の弟子となり、三大部を讀み、解せざる所は道俗長幼を問はず聞き、從つて內典外典に通じ、明曆元年（一六五五）深草に地を卜し、草山に瑞光寺、卽ち元政庵、を開き、常に法衣を脫せず、長齋律を持し、經を誦し、佛を禮し、勤行怠りなく、道俗信服したが、持律嚴肅なので後世之を草山律、又は法華律といひ、熊澤蕃山、石川丈山、淸國人陳元贇と方外の交をなし、贈答の詩文多く、陳元贇との唱和は元元唱和

集となつた。元贇と元政とで元元であらう。性至孝、父を養うて八十七歳で逝り、母をも數年後同齢で逝り、自らも間もなく寂した。著書も多いが、草山集は最も有名である。然し、その人本尊論といふのは、或は、必ずしも主張でなくして、主として平生の行持から來て居るものかも知れぬ。元祿、享保の頃に日透（一六五三—一七一七）は法正人傍說を唱へ、他には又文化、文政の頃の日臨の法本尊說もあり、日智の人法一致說もあるといはれるから、異說が多いのである。元政の遺風を繼いで人本尊說を取つたものに立像寺日輝（一八〇〇—一八五九）があつて、開祖の深旨を究めたといはれるが、一方からは異義であるともいはれ、而も自ら水戸談林を興し、又池上談林を復興し、其學が關東に振つた。

天台宗から日蓮宗に歸する者があると同時に、又日蓮宗から天台宗に入る者もあつた。良澄（一五七一—一六四二）字は西岸は日遠に從つて日蓮宗義を研究したが、其立義を偏見なりとして、斷然志を決し、天台宗に轉じた。濟輩嗷々たりしも改めず、比叡山に上つて開解立行、歳久しきに及んだので、三塔の學頭が推して、伊勢西來寺に住せしめた。一日善導大師の四帖疏に對する傳通記を閲し、彌陀本願の深旨を知つて念佛門に歸し、壬生寺の竹林中に庵を結んで稱名し、爾來、河内極樂寺、和州成福寺に至つて奇瑞を感じ、壬生の草庵で寂した。又眞超（＊—一六五九）も初め日蓮宗で出家し、日迢と名乘り、後に眞超と改め、宗義に通じて後、妙顯寺に住し、宗

の綱維と爲つたが、日蓮宗義に滿足が得られなくなつて、寛永十一年（一六三四）に夢中奇瑞を得て、念佛三昧が出離の要であることを知り、宗派を改める爲に、八宗の闘を作り、佛前で至誠心も て引き、天台宗を得、よつて比叡山に上り、又日課を定め、奇瑞を感じた。天海大僧正に請せられて東叡山幹事となり、辭して横川に歸り、大僧都に任ぜられて西教寺に住し、戒と念佛とを弘め、後、醍醐に極樂寺を營んで不斷念佛を起し、其後京都で寂したが、著述も多い。かく日蓮宗から轉じた者は念佛を主となすに至つて居る。

一一　佛教の頽廢と排佛論

德川時代には佛教は上下各層に普及浸潤し、內に於ては各宗共に宗義の講究を盛んならしめたといへるし、元祿の時期に、一般文藝等凡て旺盛な發達を遂げたのと呼應し、自由研究も現はれて見るべきものがあり、此點殆どインド、シナにも無い所といふべく、一方からいへば、これが幕府の佛教保護に應へる所以ともなつたのであるが、然し、同時に弊としては、一般が安逸を貪り、惰眠に耽り、而も祕事法門や蓮華往生など、極端な事件が起り、亮賢が桂昌院及び綱吉將軍の歸依を得て、音羽に護國寺を創し、隆光が同じ歸依を得て、護持院を建てたが、遂に綱吉をして、犬公方たらしめ、祈願修法の競爭を起した如きも弊の一である。然し、外には整然たる統制が行はれ、法度に依つて一絲紊れざる狀態であつたが、これは凡てを固定化する所以であり、潑剌たる生命ある布教の如きは、爲に阻害せら

れるに至つたと考へられる。殊に宗門帳の如きは、佛教としてあり得べからざる寺檀關係を確立したもので、寺院が檀徒に支配掣肘せられる如き風習すら起らしめた。此の如き餘弊は、之を凡て除く拔本塞源の方法を考へるにしても、この幕府の存する限り、全く施され得るものでないから、佛教本然の姿には還るを得ないのである。かかる間に於て、儒者、國學者の間に、漸次排佛論が擡頭し、痛切な批難排斥が起るに至つたが、これはまさしく時代の要求產出であつて、而も我國獨得の現象といふべく、徒らに非議謗言に奔つた點もあつて、結果から見れば、現代に至るまで、我國文化人の宗教心を薄弱化した原因の一となつたともいへる。この排佛論の缺點は、單に一般人から佛教を奪はんとのみするもので、佛教に代る安心立命の糧を與へんとする點の皆無な點である。卽ち破壞をのみ快として、建設に心を用ひないことである。佛教の墮落を排することは、佛教者の中にも存したから、殆ど何人にも考へられること、從つて時代としては最適切なことであつたが、破壞にのみ奔つたことは、何としても改革方針を誤らしめたものといへよう。排佛論は藤原惺窩、谷時中、林羅山、山崎闇齋などが其始めをなすが、何れも初めは佛教者として寺院に生活した人々である。これ等の人々の論ずる所は佛教の出世間性、僧侶の墮落態を攻擊することが多い。多年佛教に育つても佛教を理解し得なかつた點が多いのであるが、然し、進んで富永仲基、中井竹山、中井履軒になると、批評的になつて來る。

富永仲基の出定後語は大乘非佛說論で、鐵眼の大藏經の刊行によつて大藏經に目を曝らして、論述の資料を得た點が多いといはれ、果して排佛論であるといへるかは明確でないが、當時の佛教界には空谷の響音で、影響も多い。竹山は宗教否定論者で、而も僧侶寺院の整理淘汰論であり、履軒も佛教弊害論である如くである。佛教の弊害を淘汰し整理せんとする點は正しいことであるが、かかる排佛論が國體論と結合して、そこに本居宣長、平田篤胤の排佛論となり、平田篤胤の如きは富永仲基を模倣し、自ら宗教の何ものたるかを知る所なく、野卑な言論によつて、民衆間に排佛論を鼓吹し、これが最も廣い影響を及ぼして、明治維新の排佛毀釋は多くは之に基を有するのである。これ等の根本には古い時代の物部氏の主張が横はつて居ると考へられるから、何時の時代にも同じことが繰返へされると見える。これ等に對して、佛教者からの反駁も存するが、然し時代の風潮としては、何の爲す所もなかつた結果に終つた。何れが幸か不幸かは人爲の定め得る所ではないであらう。

排佛論は德川時代の最初期から存して、漸次喧しくなつて居るが、これ等凡てを通じて、論者に宗教的體驗なるものなく、宗教心なく、宗教に宗教としての價値を認めることが全く無いのが特色をなして居るのは、極めて遺憾なことである。當時としては、佛教が卽ち宗教で、佛教以外には宗教は無かつたのである。儒者は儒教を宗教と見て居るのでなく、神道家、國學者

も神道を以て必ずしも宗教と見て居るのではないから、佛教が宗教を代表して居るのが、實際上の事實である。然るに、この佛教に何等の宗教的價値を認めず、佛教無用論卽ち宗教無用論、宗教否定論を主張し、信仰なり、安心立命なりは、一般愚民の慰めに過ぎぬ如くに見るのは、その人等に宗教經驗の皆無なるが爲であり、而もこれが明治以後現代に至るまで爲政者の腦裡にも存する考であるのを見ると、當時からの遺物である點が認められる如くである。所謂愚民なるものが大多數で、儒者や神道家や國學者などの賢者は極めて少數である事實に思ひを潛めることが、現代としても、最緊要事である。

明治以後

〔明治時代以後一八六八―〕

一　佛教趣意の減失、廢佛毀釋

明治維新は王政復古といはれ、之を復古となすが、實は久しき間の幕府等の武斷政治の反動と尊王思想との結合による尙古で、その古とは神代卷に現はれたものを指すのが事實である。そして明治元年神佛分離が令せられて、佛教に存した凡ての待遇は停止となり、神のものは神社に、佛のものは佛教に歸屬することになつたが、判然區別の出來ないもののあるのがむしろ當然であるのに、凡て機械的に分たれたから、現今としても極めて不自然なものがあり、明かにインド起原の一種の神が我國の神として扱はれて居る如き奇觀を呈して居るものも存する。神佛分離がよいかわるいかは別問題として、奈良時代以來行はれたことを一朝にして廢するのであるから如何に急激であるかが判る。然し幸にして一般民衆の間にまで徹底しなかつたから人心の動搖は免れて居た。元年神祇科が設けられ、二年に神祇官が太政官の上に移され、佛教は太政官の下の民部省で管掌せられ、同年宣教使が置かれ、官制に變遷もあるが、宣教は、一、敬神愛國の旨を體すべき事、二、天理人道を明かにすべき

事、三、皇上を奉戴し朝旨を遵守せしむべき事、の三條であつて、之をなすのが教導職で、神官僧侶が之に當り、一宗一管長を立てて統率せしめ、五年佛教各宗の申出によつて神佛合併教院を創設して、三條の教旨を體せしめることとし、中央に一の大教院、各府縣に中教院、神社寺院を凡て小教院として開き、大教院、中教院には神代の神を祀らしめ、六年には、一、神德皇恩の説、二、人魂不死の説、三、天地造化の説、四、顯幽分界の説、五、愛國の説、六、神祭の説、七、鎭魂の説、八、君臣の説、九、父子の説、十、夫婦の説、十一、大祓の説、の十一兼題が令せられて、宣教の標準が示され、教導職は神佛二教徒には限らないが、僧侶は教導職となつて、全く神官の服を纏ひ、或は法衣を著けながら、拍手して魚鳥を神前に捧げるから、佛教は全く其趣意を失うて、教義の本色と異なる説をなさざるを得なくなつた。即ちこれ大體神道を一種國教視する考であつて、佛教は宗教としては何等認められる所はなくなつたのであるし、佛教は滅失せしめられたのである。更に神佛分離の令が排佛論と結付き、尙古思想と、また新を迎へる思想とが混じて、遂に排佛毀釋が起り、甚だしきに至つては、全く無用のものとして堂塔伽藍の破却、佛像、佛具、經論の燒却が行はれたから、反動としては、暴動の現はれた所もある。排佛毀釋は空前の事件であつて、其原因は主として神祇官員中に平田篤胤流の思想を奉じた者の居たこと、僧侶の墮落無氣力の多かつたことなどに存するといはれるが、單

に排毀し奪ふのみで、宗教的のものを與へる所は皆無であつたのみならず、むしろ佛教の破壞を奬勵した風がある。たとひ朝廷の本意は排佛毀釋にあつたのではないにしても、適切な處置を講ずるを得なかつたのは策の得たものではなかつた。然るに、佛教徒の中に西歐に往つて、歐洲の宗教事情を視察し、彼地に於て至る所宗教が盛んで而も重んぜられて居るのみならず、國家の存立としても宗教の重要要素となつて居るのを知つて歸り、之に基づいて宗教の缺くべからざることを獻言したので、遂に八年に神佛合併の大教院などが廢せられ、佛教各宗は管長に委任せられ、宗制寺法を定め、學林教校を設け、政府は、以後は、教義信仰に關係せず、監督をなすのみのこととなつたが、これが又空前のことであり、元來政治に關係のない佛教が自ら政治を行ふことになり、進んでは立法と行政と刑罰とを實行し、一國家の內に多數の小國家が存するが如き形となり、佛教僧伽の事情狀態は全く本來のものと異なるものになり終つて、現今も其ままである。然し、朝廷としても、從來の處置が餘りに急激に失し、人民の信仰に動搖を來すのは策の得たものでないことに鑑み、十七年には教導職を廢止し、神道復興の努力の水泡に歸したことが明かになつたから、漸次法制上、經濟上に、佛教に對する扱ひを和らげ、其健全な發達活動に便する如くになし、各宗の祖師には殆ど凡て大師號を賜はり、門跡寺院、御由緒寺院には特別の優遇を與へ、凡ての處置は以前に比して大に和げられた。然し、佛教の

ことは凡て佛教に任せるといふのが政府の方針とせられたから、各宗はそれぞれ自らの方で立つて行かねばならぬ必要上遂に一小國の如き體制を建てることになつたのである。然し政府や官吏としては神道を一種國教的に見ることは依然として存續し、神社は宗教に非ずといふ宣言の下に押通して、昭和二十年亡國に至つても變化はなかつたのである。それと共に、宗教に對する理解は爲政者の間には殆ど缺け、重要な教育の方面に於て、方針として教育と宗教とが全然分離せられ、從つて學校に入る子弟には宗教教化を受ける機會全くなくなり、かくして學校教育を卒へた者が爲政者側に立つので、依然として宗教の理解もなく、屢〻宗教無視に傾き、宗教に對して殆ど爲す所がないに至つて居るのである。此の如き狀態で果して健全な國家の存立發達があり得るや否やの問題すら意識的には考へられて居ないのである。通俗的な例を擧げると、佛教寺院は多くは葬儀年忌などの法事の場所となつて居るが、現今に於ても、之を以て、之に從事する宗教家を以て不必要な徒食者である如くに見、以前の排佛家の考と共通する考を有するが、假に葬儀年忌などを一時に全く行はなくなつた場合を想像すれば、人々は安心して日常生活を穩かに暮らすを得ないに相違なく、由々しき社會不安を來し、國家問題とすらなるべきものであるから、かかる點を考へずに、直ちに不必要の如く見做すのは爲政者としては無責任であるといふべきで、これが今猶ほ常に見られるのである。宗教は微妙な人心に萌すもの

であるから、無宗教を以て誇りであるかの如く考へる我國人は明かに教養に缺けた點があるのであるが、遂にかかる結果に至らしめたのは一には確かに以上の如き政策にも基づくのである。

明治維新は佛教に取つては一大法難であり、又一大轉換期をなすものであり、此間に處して東奔西走し、以て教勢挽回に努めた人々は、各宗に、それぞれ見出されるのである。例へば、淨土宗の福田行誡、眞宗本願寺派の大谷光尊、島地默雷、大洲鐵然、赤松連城、原田針水、北畠道龍、同大谷派の大谷光勝、石川舜台、渥美契緣、南條神興、日蓮宗の新井日薩、眞言宗の釋雲照、天台宗の奥田貫昭、赤松光映、臨濟宗の荻野獨園、由利滴水、今北洪川、橋本峨山、曹洞宗の諸嶽奕堂、久我環溪、原坦山、瀧谷琢宗、西有穆山など、其他かかる人々であるといはれる。然し、これ等の人々は大勢上から見れば、一大轉換の橋渡しとなつて、新局面は又他の各宗の新人の負擔する所となつたと見られるのである。我國一般としても、明治維新は一大轉換期であつて、從來とは一切の方面に於て全く異なつたものとなり、殊に西洋諸國との交通接觸から、オランダなどとのみ接して居たよりも廣く、文化の各方面の彼に於て進歩せるものを取入れ、古きものを改良進歩せしめて、其面目は一新するに至つた。初めは恐らく自主的でなく、殆ど盲目的に新しいものを取る如き狀態にあつたこと、舶來の語によつて示されて居る通りであるが、後には漸次自主的に採長補短の方針にもなつた。勿論此間には種々なる極端な

こともあつたが、長い傳統のある我國としては自ら進むべき方向が存するのである。かかる時にあつて佛教も亦時運に促がされて大なる變化を受けざるを得ないから、法難は結局轉換とならねばならぬにしても、それは徐々に行はれ、初めは一般的に凡ての方面に於て影響せられたことは當然で、漸次改まる所が多いことになつたが、然し宗教的特色としての傳統を重んずる風は捨てられないから、新舊接合の異色の存するのも止むを得ない所であらうか。

二　佛教研究の起り　德川時代に於ける講學研究の進歩は、明治維新及び其排佛毀釋と、歐洲最新の諸學の傳來弘布とによつて、全く頓挫し、沈滯爲す所なきまでの大打擊を受けたが、宗制が一定し政治的の外面形態が整ふに從つて、明治二十年頃からは、研究上の活動も起るに至つたと見られる。當時は一は西洋諸學の進歩して居ることに影響せられた點が少なくないので、佛教の解釋も西洋學術への迎合が多く、此傾向は大正の半頃までは强く續いて居るが、此間には、各宗にも、それぞれ專門の學校が設立せられ、各〻研究に勤しんで、宗學と一般佛教との攻究が行はれた。また、明治の半頃からは、梵語、パーリ語の如きインドの言語が研究せられて、原典による佛教研究が行はれ、從來知られなかつた新生面が漸次明かとなり、殊にパーリ語の研究が、漢譯との對照の下に、適確な初期佛教の知識を開き、大正の半頃からは、更に進んで批評的の研究となつて、パーリ五部と漢譯四阿含との對照から、それ等以前の佛教す

ら考定せられんとするに至つた。同時に漢譯經論も廣く繙讀せられるに及んで、インド哲學史一般の資料も供給せられ、梵語の進んだ研究にはチベット語の研究も助けを得るから、チベット語の研究も行はれ、今や佛教研究としては何れの國の研究にも優る程の域に達して居るといへよう。然し明治時代から現代に至るまでとしては、各宗の各種の方面のことを、具體的に論述することは、むしろ之を省く方が、今の場合としては、當を得て居るのではないかとも思はれるし、公平に判ずる資料が十分とはなつて居ないと思はれる。

三　結　語　以上略敍した如く、多くの佛教者各〻の一代の心血を濺いだ結果、佛教は我國に於て日本佛教として發達進歩し、インドにもシナにもない獨得のものを出したのである。廣く文化一般から見て、これ日本佛教が人類文化の發展に貢獻した所であつて、我國人の努力の結晶であるから、單なる移植寄在の狀態ではなく、全く受容攝取の結果であることは、否定出來ない點である。一見日本佛教は、佛教發達の達すべき點までも凡て達した如き觀があるから、此點を、簡單に、事と理との關係の解釋で考へて見るに、インドの佛教は事理の相卽融通までを明かにし、シナ佛教は理の中に含まれるとしての事と事との相卽融通を說き、日本佛教は事の一一の中に理を見、事のみの相卽融通を見るに至つたものといへるであらうと考へられる。事は具體的の事實で、理は要請的の原理であるが、具體的の事實が理によつて說明解釋せ

られ、如何にも理の方に優れた價値が附せられるのが一般的である。これがインド及びシナの佛教の大綱であり、シナの或派は如何にも事のみを重く見る如くになつて居るが、それにしても、理に基づくといふ點から事を見る見方を脱して居ないと考へられる。之に對して、日本佛教は、眞言宗にしても、日本天台殊に中古天台にしても、また鎌倉時代の新宗教にしても、凡て事に立場を置いて、事の中に理を見、事で事を解釋說明することになつて居るから、事理の關係の上では、これ以上の發達はなかるべきであると思はれる。從つて、日本佛教は今後如何に進歩せしむべきかが、重大な問題となつて居るといへよう。固より文化の發達には完成結末などのあるべき所以はないから、更に一層の進歩發達の飛躍が期待せられねばならぬ。從來の發達から見れば、日本佛教は天台系統と眞言系統と淨土系統と禪系統との四に歸著するといへるであらう。細かにいへば、此四に入らないものが存する如くであるが、發達史の全體を通じて見、又現今の狀態から考へると、此四によつて中樞的のものを盡くし得るし、從つて凡てを此四に含ませ得るであらう。此中で、天台系統は他の根幹となつた點が多いから、基たるものとして見て置くと、他の三系統中、眞言系統は全佛教を顯密二教に分つて、結局凡ては密教に入るべきものと見、淨土系統は全佛教を聖淨二門となして、最後には一切は淨土門に歸すべきものとなし、禪系統はまた全佛教を教禪二門に分ち、教の凡ては禪に含まれ終るべきものとな

す各二分の教判を有する興味ある點が認められる。これ等は、何れが取るべきものであるかについては論ぜらるべきものでなく、各〻をして、自由活潑に發展せしむべきものであり、しかすることによつて、今後の發達進歩に寄與することになつて來るであらう。此の如くならむことを望むのは、決して啻に佛教の爲のみのことではない。

餘說　現代に於ける佛教の狀態を見ると、一方に於ては實際社會に行はれて居る方面と、他方に於ては純粹學理的に研究して居る方面とに分つことが出來るであらうと思はれる。前者は歷史的に變遷した制度や一切の事情に纏綿せられて居るから、幾多改革匡正すべき點を有しながらも、簡單には變化せしめることは出來ないもので、これ等の實際問題については今玆では指摘することすら之を避けよう。後者については少しく述べて見たい。

我國ほど佛教研究に惠まれて居る所は他に全くない。單に資料の點から見ても、凡ての大藏經は容易に讀み得ることになつて居る。大藏經はインド本土には古來纏められたことなく、而も現今としては經論は散逸し、存するものは極めて少ない。セイロンには存するが、所謂小乘に屬するのみで、他の部分のものが無い。從つてチベットとシナとにのみ存するが、それは何れも我國に完備して居る。我國では國語で現はした大藏經は造られなかつたが、古來漢譯大藏經が國語と殆ど同じやうに讀まれるし、現今としてはチベット大藏經もセイロンのパーリ大藏

經も研究資料となり得るし、サンスクリットの經論も渉獵し得るのである。廣く、佛教を以て人類文化の發展を促進せしめるものと見れば、之を研究し其意義を闡明することは、一に我國人の雙肩に擔はれて居る課題であるといへよう。從來インド、シナ、我國に於て發達したものは、この課題に對する答であつたには相違ないが、然し、今後としては、猶一層突込んだ探究に進まねばならぬ點がある。

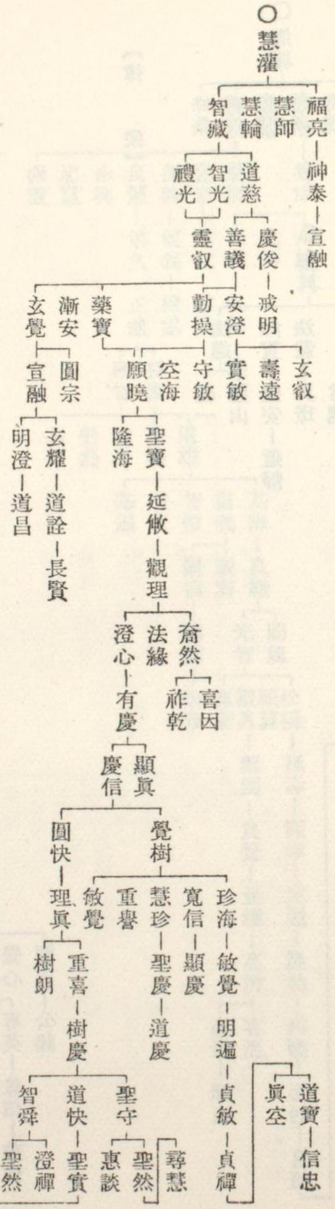
我國の佛教は何というてもシナの佛教が基となつて居るものであるが、シナ佛教は其教相判釋で判るやうに、一種の理論組織の成心を持つて居て、それを經論に讀込む傾向を有し、その成心に合するものを取り、又合する如くに解釋して、原經論のすなほな意味趣旨を汲取らない場合が少なくない。かかる讀込みの上に教義が成つて居る點があるとすれば、それは原著者とは遠いもので、たとひ重要な意義があるにしても、今後は、も一度讀みなほすべきである。この讀みなほしに於て、原典の研究、譯文相互の比較對照の研究が缺くべからざることになる。此方針で進めば、其研究の前には全く新らしい視野が開けるに相違ないであらう。

然し、現今與へられて居る資料は、何れのものでも、悉く既に變遷を經た以後のものである。此點に關しては疑ひはないから、變遷以後といへば、どうしても變遷以前のもの、變遷を來した基のものを考へるでなくば、變遷といふことすらいへない道理である。茲に於てか、佛教興

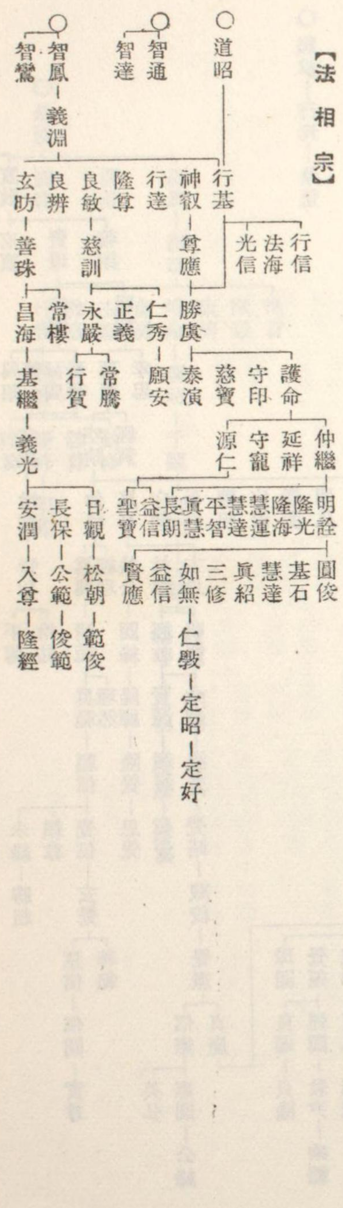
起の時代のものが闡明せられねばならぬことになる。これは容易な事業ではなからうが、あらゆる努力を拂うて試みるべきである。そして之を起點となして歴史的の線に沿うて進んで、凡ての分野に入る要があると思はれる。かくして現はれ來るそれぞれの資料のすなほな趣意を研究して行けば、全く新らしい發達經路が明かにせられ得るであらう。此成果が今後の佛教のあり方を指示するものになるのであらうと考へられる。此成果に基づいて實際社會に行はれて居る方面の佛教の改革更生の方針をも立つべきである。經論の中でも經は決して凡て理論的のことを論述して居るのでなく、たとひ理論が含まれて居ても、表現は全く文學的であり、そこに汲めども盡きぬ程の興味を有するものである。此方面を見ずに、殆ど無味乾燥の敍述なるかの如く扱ふのは、恐らく偏頗を免れないものであらうし、殊にシナに於ての譯文にのみたよるのは、止むを得ない點であるにしても、今後としては改めねばならぬのである。從つて佛教の研究には將來種々なる方面があつて、大藏經は無盡の寶藏であるといへよう。

附錄

【三論宗】


○慧灌
福亮
慧師
神泰
宣融
慧輪
智藏
道慈
智光
禮光
善議
慶俊
靈叡
安澄
戒明
玄叡
壽遠
實敏
勤操
守敏
藥寶
漸安
玄覺
空海
願曉
圓宗
宣融
聖寶
隆海
玄耀
明澄
延儆
道詮
觀理
道昌
長賢
法緣
斎然
澄心
祚乾
喜因
有慶
顯眞
慶信
覺樹
圓快
理眞
敏覺
重譽
慧珍
寛信
珍海
樹朗
重喜
聖慶
顯慶
敏覺
樹慶
道慶
明遍
聖守
道快
智舜
聖寶
眞空
道寶
信忠
聖然
澄禪
聖然
惠談
聖然
尋慧
聖兼
聖忠
聖尋
眞空
貞敏
貞禪

【法相宗】


○智鸞
○智鳳
義淵
○智達
○智通
○道昭
行基
玄昉
良辨
良敏
隆尊
行達
神叡
尊應
光信
法海
行信
善珠
慈訓
勝虞
昌海
常樓
永嚴
正義
仁秀
願安
泰演
慈寶
守印
護命
基繼
義光
行賀
常騰
源仁
守寵
延祥
仲繼
安潤
長保
日觀
聖寶
益信
長朗
眞慧
平智
慧達
慧運
隆海
隆光
明詮
松朝
範俊
賢應
益信
如無
三修
眞紹
慧達
基石
圓俊
公範
俊範
仁數
定昭
定好
入尊
隆經

【宣教】

- 玄賓
  - 賢璟
    - 善謝
      - 明福
        - 孝忠
        - 延賓
          - 經賀
            - 空晴
              - 仲算
                - 眞喜
                - 守朝
                - 平忍
                - 觀照
                - 定澄
                - 春明
                - 明久
                - 明憲
              - 空操
                - 增利
                - 壹和
                - 增祐
                - 平傳
    - 修圓
      - 與昭
      - 德一
      - 善廣
      - 春德
        - 眞與
          - 清範
            - 眞範
              - 賴信
                - 覺信
                - 玄覺
                - 尋範
                - 慧信
                - 信圓
                - 實尊
                - 賴尊
                - 永緣
                - 勝超
        - 經理
          - 扶公
            - 圓緣
              - 隆禪
                - 隆覺
                - 恩覺
        - 眞然
          - 賢源
            - 賴嚴
              - 信慶
              - 信憲
                - 英弘
                - 憲圓
                - 公緣
        - 理然
          - 經敦
            - 賢源
              - 賴嚴
              - 信慶
              - 信憲
                - 英弘
                - 憲圓
                - 公緣
    - 主恩
      - 林懷
        - 明懷
          - 永超
            - 湛秀
              - 覺晴
                - 藏俊
                - 覺憲
                - 信憲
                - 英弘
                - 憲圓
                - 公緣
                - 貞慶
    - 璋圓
      - 良遍
        - 貞隆
      - 覺遍
        - 經圓
          - 敎尹
            - 乘範
      - 戒如
        - 貞弘
          - 範憲
      - 良算
        - 實算
          - 定算
      - 覺心
        - 專英
          - 尊信
            - 慈信
      - 圓玄
        - 公緣

【律宗】

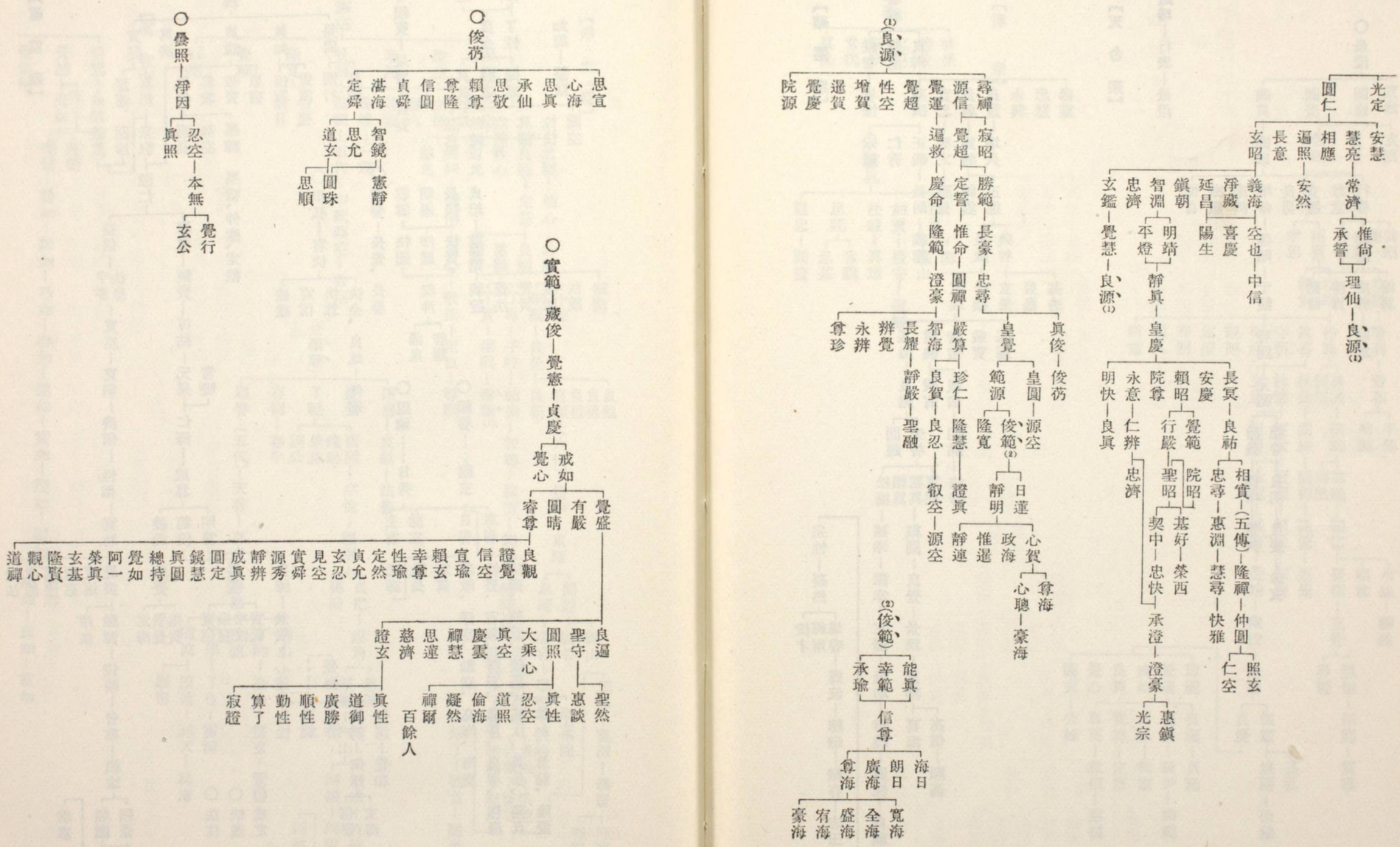
- ○道璿
  - 修榮
  - 善俊
  - 忠慧
  - 慧新
  - 常魏
  - 眞法
- ○鑒眞
  - 法進
    - 聖一
    - 慧山
  - 如寶
    - 豐安
      - 道靜
  - 法載
    - 眞璟
  - 思託
    - 常魏
    - 忍基
  - 道忠
    - 圓澄

【華嚴宗】

- ○審祥
  - 嚴智
    - 智憬
  - 鏡忍
    - 良辨
      - 慈訓
        - 永嚴
        - 仁秀
        - 正義
          - 長朗
            - 義聖
      - 實忠
        - 等定
          - 勝長
      - 良興
        - 靈義
          - 禪雲
      - 良慧
        - 堪久
          - 正進
            - 長歲
              - 道雄
              - 普機
                - 智愷
                - 道義
                - 基海
                - 良緒
                - 圓超
                - 松橋
                - 延幸
                - 深幸
                - 定遐
                - 隆助
                - 辨曉
                - 道性
                - 良禎
                - 宗性
                - 凝然
                - 俊才
                - 禪爾
                - 堪睿
                - 靈波
                - 總融
                - 融存
                - 志玉
                - 賴算
                - 觀眞
                - 觀圓
                - 良覺
                - 景雅
                - 高辨
                - 喜海
                - 高信
                - 順高
                - 光智
                - 觀眞
                - 寬朝
                - 基遍
              - 興智
                - 玄榮
                - 豐藝
                - 基秀
      - 永興
      - 忠慧
      - 壽靈

【天台宗】

- ○道璿
  - 行表
    - 最澄
- ○最澄
  - 義眞
    - 圓珍
      - 惟首
      - 猷惠
      - 康濟
      - 增命
        - 運昭
          - 千觀
            - 智圓
              - 元範
                - 證義
                - 信增
                - 常久
                - 範守
                - 良明
                - 良慶
                - 珍玄
      - 良勇
      - 玄鑑
      - 尊意
      - 行譽
        - 餘慶
          - 慶祚
            - 明尊
          - 勝算
          - 勤修
          - 穆算
    - 圓澄
    - 圓修


光定
圓仁
安慧
慧亮
常濟
惟尙
承誓
理仙
良源(1)
相應
遍照
安然
長意
玄昭
義海
空也
中信
淨藏
喜慶
陽生
延昌
鎭朝
智淵
明靖
忠濟
平燈
靜眞
皇慶
玄鑑
覺慧
良源(1)
長冥
良祐
安慶
相實
(五傳)
隆禪
仲圓
照玄
仁空
忠尋
惠淵
慧尋
快雅
賴昭
覺範
院尊
行嚴
聖昭
院昭
基好
榮西
明快
良眞
永意
仁辨
忠濟
契中
忠快
承澄
澄豪
惠鎭
光宗
眞俊
俊芿
皇覺
皇圓
源空
範源
俊範(2)
日蓮
隆寬
靜明
心賀
尊海
政海
惟暹
心聰
豪海
靜蓮
證眞
尋禪
寂昭
勝範
長豪
忠尋
源信
覺超
定誓
惟命
圓禪
嚴算
覺運
遍救
慶命
隆範
澄豪
智海
珍仁
隆慧
良賀
良忍
叡空
源空
長耀
靜嚴
聖融
辨覺
永辨
尊珍
(2)俊範
能眞
幸範
承瑜
信尊
海日
朗日
廣海
尊海
寬海
全海
盛海
宥海
豪海
(1)良源
覺超
性空
增賀
遲賀
覺慶
院源
思宣
心海
思眞
承仙
思敬
賴尊
尊隆
信圓
貞舜
湛海
定舜
智鏡
憲靜
思允
道玄
圓珠
思順
俊芿
實範
藏俊
覺憲
貞慶
戒如
有嚴
圓晴
覺心
容尊
覺盛
良觀
證覺
信空
宣瑜
賴玄
幸尊
性瑜
定然
貞允
玄忍
見空
實舜
源秀
靜辨
成眞
圓定
鏡慧
眞圓
總持
覺如
阿一
榮眞
玄基
隆賢
觀心
道禪
良遍
聖盛
聖守
聖然
惠談
圓照
眞性
大乘心
眞空
慶雲
禪慧
思運
慈濟
證玄
眞性
道御
廣勝
順性
勤性
算了
寂證
忍空
道照
倫海
凝然
禪爾
百餘人
疊照
淨因
忍空
本無
覺行
眞照
玄公

【眞言宗】

- 實慧
  - 慧運
  - 眞紹
    - 義眞
    - 圓珍
    - 宗叡
      - 源仁
        - 益信—宇多—寬空—寬朝—濟信—性信—寬助
          - 覺法
          - 永嚴
          - 信澄
          - 聖惠
          - 寬遍
          - 淨法
          - 覺鎖—融源—俊晴—會寧—賴瑜
            - 聖憲
            - 順繼
            - 賴豪
- 眞濟
  - 眞然—壽長
    - 眞皎
      - 峯禪
      - 無空
      - 峯宿、仲應、定觀
    - 聖寶—觀賢—淳祐—元昊—仁海—成尊
      - 常曉
      - 義範—勝覺
        - 定海
        - 賢覺
        - 聖賢
      - 範俊
        - 明算
        - 嚴覺
          - 寬信
          - 宗慧
          - 增俊
          - 實範
        - 良禪—兼賢—心蓮
          - 覺海
            - 法性
            - 道範
            - 尙祚
            - 眞辨—信日—信堅
              - 玄海
            - 慧深—覺和
- ○空海
  - 眞雅—載寶
    - 惠宿
  - 眞如
    - 恒寂
    - 雪演
  - 杲隣
    - 圓行
    - 眞隆
- ○法住
- ○快道
- ○戒定
- ○東寺賴寶—杲寶—賢寶
  - 雲雪
    - 快圓
    - 淨嚴
      - 契沖
        - 涌泉
        - 智耀
    - 朝遍
    - 長快
      - 快賢
      - 眞紀—慈雲
        - 親證
        - 覺法
        - 覺賢
        - 護明
        - 法護
        - 諦濡
  - ○俊譽—長覺、長譽
    - 快全、良雄—仟遍
  - ○信弘—宥快
    - 成雄
    - 宥信
    - 快尊
- ○道瑜……日秀
  - 玄宥
  - 祐宜
    - 元壽
    - 隆長
    - 宥眞
- ○賴譽……賴玄
  - 日譽
    - 運敞、淨空、動潮、亮海、海應
    - 宥義、秀算、尊慶、良譽、信海
    - 亮汰、英岳、亮貞
    - 尊如、尊祐、隆慶
  - 專譽
    - 性盛、宥義、秀算、尊慶、良譽、信海
    - 快壽、賴意、俊盛
    - 尊如、尊祐、隆慶
    - 卓玄
- ○明忍
- ○寥海
  - 了性
    - 良永
      - 眞政
      - 然純
      - 慧忍
      - 空照
      - 眞讓
      - 性快
      - 圓空
    - 寥通
    - 圓忍
  - 如周—慧猛

【淨土宗】

- 尊觀—明心—妙觀
  - 十聲
  - 聖觀—良榮
    - 良觀
    - 良德
    - 良哲
    - 良頓(六代)—袋中—東暉
      - 聞證
        - 義山
        - 雲臥—靈潭—義燈—可圓
        - 普寂
      - 圓智
      - 息庵—湛睿—學信
        - 信冏
        - 俊峰
        - 貴屋
        - 恢龍
    - 良朝
  - 良曉—定慧—良順
    - 了專—子吽—祐崇—智聰—禪芳—範譽—幡隨意
      - 還無—萬無
        - 忍徵
        - 懷音
        - 岸了—敬首—關通
      - 隨嚴—了聞—無紘—祖山
    - 了實—聖冏—聖聰(1)
    - 智演
    - 蓮勝
  - 性心
  - 道光
  - 禮阿—向阿—玄心—敬法—定玄—等熙
  - 慈光
- 辨阿—良忠
  - 淨音
  - 立信
    - 證空
    - 證入
    - 幸西
    - 道觀
    - 聖達—一遍
- ○源空
  - 長西—遊觀—(五代)—中統臨空—善空
    - (1)聖聰
      - 了曉
        - 愚底
        - 訓公
      - 存冏—存牛
      - 慶竺
        - 酉冏—宗悅—祖洞
          - 貞把—虎角
            - 尊照
            - 靈巖—珂山
              - 厭求—貞極
              - 珂碩—珂憶
              - 珂然
            - 聰補
      - 聰譽—(五代)—天啓—存貞—存應
        - 廓山
        - 了的—臺山—靈玄—鸞宿
        - 吞龍
        - 了學—了也—靈潭
        - 隨波—檀通—祐天—祐海
          - 嚴宿
    - 蓮譽—良敏—法譽
  - 隆寬
    - 智慶
    - 敬日
  - 覺瑜
  - 行空

【眞宗】

- 善鸞—如信
- 覺慧
  - 覺如
    - 存覺
    - 從覺—善如—綽如—巧如—存如—蓮如—實如—證如—顯如
      - 教如
      - 准如—良如—寂如
  - 覺信尼

○親鸞
- 顯智—專空—定專—空佛—順證—定順—定顯—眞慧
- 眞佛
  - 願海—了海—誓海—明光—了源—源鸞—了明—唯了—性曇—性善—經豪
  - 專海—圓善—如導—道性—如覺
- 性信房—善性—願明—愚咄—慈空—慈觀
- （如信—覺如—存覺）
- 眞慧—應眞—堯慧—堯眞—堯秀
- 眞智—眞空—眞能—眞敎—堯朝

○准玄、西吟—知空—若霖
- 智遲
  - 法霖、義敎、功存—智洞
  - 僧樸
    - 僧銘—柔遠
      - 道隱—性海
      - 慧雲—大瀛—曇龍
      - 僧叡
    - 慧雲—大瀛—曇龍
    - 僧叡

○慧空—慧然
- 隨慧
- 慧琳
  - 深勵—德龍—龍溫
  - 宣明
  - 寶景
  - 頓慧—大含
  - 宣成

【時宗】

○一遍
- 他阿
  - 一鎭—白木
  - 心阿
  - 解阿
  - 淨阿
- 量阿
- 俊聖
- 彌阿聖戒
- 作阿
- 呑海—渡船—自空
  - 尊觀……尊任
- 眞光
- 師阿
- 託阿—元愚
- 國阿

【日蓮宗】

○日蓮
- 日昭
  - 日輪
  - 日像—妙實—朗源
    - 日實
    - 日霽
      - 日純
      - 日隆
- 日朗
  - 日印—日靜
  - 日興—日目
- 日向—日進—日善—日臺—日院—日叡—日億—日尊—日延—日朝
- 日頂
- 日持
- 天目
- 日常……日什
- 日遲
  - 日薩
  - 日祝
  - 日親
- ○日珖
  - 日球
  - 日詮
  - 日諦
  - 日重
    - 日乾
    - 日遠—日遲—日境
- ○日新
- ○日禎
  - 日尊
  - 日統
- ○日經—日生
  - 日圓
  - 日祐
- ○日奥……日講……日正
  - 日心

【臨濟宗】

○神秀——普寂—道璿

○佛海慧遠—覺阿

○拙庵德光—大日能忍—覺晏
- 懷奘
- 懷鑑—義介

○虛庵懷敞—桀西
- 良祐
- 行勇
- 心地覺心
- 桀朝
- 圓爾辨圓
- 明全—道元

○無準師範
- 無學祖元—高峰顯日—夢窓疎石
  - 無極志玄
  - 絕海中津
  - 義堂周信
  - 春屋妙葩
- 元庵普寧
- 圓爾辨圓
- 環溪唯一
- 無關普門
- 東山湛照
- 虎關師錬
- 鏡臺覺圓
- 西堂承兌

○無明慧性—蘭溪道隆
- 約翁德儉—寂室元光
- 南浦紹明
- 以心崇傳

○無門慧開—心地覺心—孤峯覺明
　拔隊得勝
　慈雲妙意
○石溪心月—大休正念
　無象靜照
○虛堂智愚—南浦紹明—通翁鏡圓—徹翁義亨……一休宗純……別傳宗眞……一凍紹滴—澤庵宗彭
　宗峰妙超—關山慧玄—授翁宗弼—無因宗因—日峯宗舜—義天玄詔—雪江宗深
　東陽英朝—大雅崇臣……東漸宗震—庸山景庸—愚堂東寔—至道無難—道鏡慧端—白隱慧鶴—東嶺圓慈
　　南景宗嶽—雲甫全祥—牧翁祖牛—盤珪永琢
　　一絲文守
　　遂翁元盧
　　大休惠昉
　　峨山慈棹—隱山惟琰—太元孜元
　　榮林宗壽
　　卓洲胡僊—月珊古鏡
　　妙喜宗績
　　春應禪悅
　　蘇山玄喬
　景川宗隆—景堂玄訥……默水龍器—卍元師蠻
　悟溪宗頓—獨秀乾才——仁岫宗壽—快川紹喜
　　玉浦宗珉……東溪智門—月船禪慧—誠拙周樗—清陰淡海
　　物先海極　　東海巨海
　　拙庵泊船
　特芳禪傑—大休宗休—龜年禪瑜……無著道忠
　　太原崇孚——寶巖禪悅—古月禪材—蘭山正隆—大蘇智珍
　　翠巖眞——拙堂敬　　仙崖　　洪巖慧範　揚宗智旭
○石帆惟衍—西澗子曇　○頑極行彌—一山一寧　○雪巖祖欽—靈山道隱　○愚極智慧—清拙正澄　○中峰明本—古先印元
○古林清茂—竺僊梵僊　○虎巖淨伏—明極楚俊　○虛谷希陵—別傳妙胤　○東陽德輝—中巖圓明　○千巖元長—大拙祖能
　　即休契了——愚中周及
【曹洞宗系】
○直翁德舉—東明慧日—別源圓旨
　　不聞契聞
　　雲外雲岫—東陵永璵

【曹洞宗】
○天童如淨—道元—詮慧——經豪
　　孤雲懷奘—寒巖義尹—斯道紹由
　　寂圓——義演
　　徹通義介—瑩山紹瑾(1)—義雲—曇希—以一—喜純—宗吾—永智—祖機—了鑑—建綱—建撕—光周—宗緣—以貫—祚棟—祚玖—門鶴—海嶽宗奕
　　鐵山士安—東洲至遼—梅巖義東—華藏義曇—東海義易
　　愚堂常賢——萬安英種—懶禪舜融—龍播松雲—梅峯竺信
　　仁叟淨熙
瑩山紹瑾(1)—明峯素哲—大智
　　峨山紹碩(2)—珠巖道珍—溫老宗興——無得良悟
　　無涯智洪—徹山旨廓——日峯玄滴—月舟宗胡—卍山道白—明州珠心—密山道顯—慈麟玄趾—宜默玄契
　　壺庵至簡　　松岸旨淵　　別峯宗見
　　珍山源照　　玄路透玄　　益堂宗甫
　　祖忍尼　　月庵珖瑛　　心光默丹
　　慧球尼　　無漏素崇　　月澗義光
　　照端祖舜　　佛光壽傳
　　不借玄位—敬翁祖欽　　月峯虎心
　　杜山義鐵
　　乾光元貞
　　大通寅察
　　瑞峯大奇
　　三洲白龍
　　大休玄密
　　德水慧性
　　古寶智璨
　　道密禪智
　　槐國萬貞
　　智燈照玄
　　大機行休
　　丹嶺本仙
　　曹源滴水
　　隱之道顯
　　默子素淵—頑極官慶—玄透卽中
　　大光寂照
　　高外全國—大忍國仙—大愚良寬

- 太初繼覺
- 傑堂能勝
- 梅山聞本
  - 太源宗眞
    - 峨山紹碩(2)
      - 無著道忠……獨庵玄光
      - 實峯良秀—明窓妙光
      - 無底良韶
      - 月泉良印
      - 道叟道愛
      - 玄翁心昭
      - 無外圓昭
    - 無端祖環
    - 大徹宗令
    - 通幻寂靈(3)
      - 了庵慧明
        - 韶陽以遠
        - 泰叟妙康—天庵玄彭—雲岡舜德
        - 無極慧徹—月江正文
          - 一州正伊—華叟正蕚
            - 快庵妙慶
              - 連山交易
          - 在仲宗宥
          - 安叟宗楞
        - 大綱明宗
          - 春屋宗能
            - 實山永秀
            - 天巽慶順
            - 月窓明潭
            - 鹽叟宗俊
            - 拈笑宗英
            - 雲岫宗龍
            - 南極壽星
            - 模庵宗範
            - 州安宗彭
          - 吾寶宗璨
    - 了堂眞覺
      - 幻翁碩壽
        - 竹窓智嚴
          - 太容梵清
          - 石叟圓柱
            - 物外性應
        - 如仲天閑
          - 眞巖道空—川僧慧濟
            - 逆翁宗順—芝崗宗田
              - 大年祥椿—大路一遵……鳳山等膳
              - 享隱慶泉—大中一介
              - 太素省淳
              - 周鼎仲易
            - 大年祥椿
          - 喜山性讚
            - 眞指玄端
            - 象山問厚
            - 同中異眼
            - 跋山運步
            - 茂林芝繁
              - 崇芝性岱
                - 賢仲繁哲……天桂傳尊
                - 大空玄虎
              - 盧嶽等都
                - 聞庵道見
                - 春崗慧晨
              - 靈嶽洞源
                - 月泉性印
                - 霽岩長通
            - 玄樓奧龍—風外本光—(門下)奕堂、活宗、坦山
- 南英謙宗—瑚海仲珊……損翁宗益—面山瑞芳
- 顯窓慶宇

- 智翁永宗
- 竹居正猷
  - 仲翁守邦
  - 器之爲瑤—大庵須益
- 定庵殊禪
- 石屋眞梁
- 天鷹祖祐
- 覺隱永本
- 普濟善救……德巖養存
- 天眞自性
  - 英仲法俊—牧翁性欽……千丈實巖
  - 指月慧印—本光瞎道
- 翠微闊堂—東皐心越
  - 吳雲法曇—蘭山道昶
  - 天湫法澧

【黃檗宗】

- 無準師範……費隱通容
  - 黃檗隱元
    - 雪峰瓦信
    - 道者超玄
    - 慧林性機
      - 獨照性圓
        - 木庵性瑫
          - 慈岳道深……大鵬正鯤
          - 鐵牛道機
          - 慧極道明—龍統元棟
          - 潮音道海
          - 鐵眼道光—寶洲道聰
        - 悅山道宗
          - 雲巖道巍—祖眼元明
          - 東澗元澤—獨文淨炳
      - 龍溪性潛
        - 慧門如沛—高泉性潡—了翁眞覺
        - 也嬾
        - 蘊謙
      - 卽非如一—千呆性佼—靈源海脈—道本淨傳—伯珣照浩—大成照漢
      - 獨吼性獅……良忠如隆
      - 獨湛性瑩—悅峯道章—旭如蓮昉
      - 獨本性源—百癡元拙—呆堂元昶—笠庵淨印
      - 大眉性善—梅嶺道雪—仙岩元嵩
        - 衝天元統—格宗淨超

良　祐　63
良　祐　85
良　譽　132
良　譽　158,
亮　雄　158
亮　海　159
亮　賢　207
亮　碩　152
亮　汰　158, 159
亮　貞　158, 159
亮　典　157, 158
寥　海　159, 160
楞嚴經　165
量阿智德　129
留身入定　31, 57
盧舍那佛　20, 22
靈異記　11
靈　叡　34
靈嶽洞源　122, 129
靈　巖　164
靈　義　47
靈　空　149, 150, 151, 169
靈　玄　164
靈源海脈　198, 199
靈　光　26
靈山道隱　110
靈　潭　168, 169
靈　徹　169
靈　波　96, 106
靈　福　17
靈峰道悟　192
嶺　冲　198
蓮　教　135
蓮華藏世界　23
蓮　社　132
蓮　勝　132
蓮　如　134, 135, 136, 179
蓮　譽　133
連山交易　185, 188
練　中　83
臨濟宗　82, 95, 109, 193
臨濟將軍, 曹洞土民　126
林　懷　43, 44
林丘客語　188
倫　海　106
盧嶽等都　123
露地和尙　51
驢耳彈琴　187
老螺蛤　187
六字名號一遍法　80
六祖壇經　187
六韜三略　147
六老僧　82, 127
朗　源　128
朗　日　66

ワ　行

和字大觀抄　170

葉上流　64, 84
賴　長　45

ラ　行

羅　什　8, 14
賴　意　158
賴　慶　154
賴　玄　107
賴　玄　155, 156
賴　豪　141
賴　嚴　45
賴　算　48
賴　昭　64
賴　信　43, 97
賴　尊　43, 97
賴　尊　102
賴　寶　141
賴　瑜　59, 140
賴　譽　155
禮　阿　131, 133
禮　光　7
蘭溪道隆　87, 88, 102
蘭山正隆　183
蘭山道昶　192
懶禪舜融　188
鸞　宿　164
理　圓　85
理　敎　41
理　眞　37, 100
理　仙　60
理　然　44
理密と事密　29
律園の三僧房　160
律　宗　15, 46, 101
律宗綱要　95
立正安國論　81, 128
立正治國論　128
立　信　77
略述法相義　171
隆　慧　65
隆　海　35, 38
隆　覺　44
隆　寬　77
隆　慶　159
隆　琦　193
隆　經　40
隆　光　38, 39
隆　光　207
隆　助　95
隆　尊　11, 13, 19
隆　禪　44
隆　禪　137
隆　長　157
隆　範　65
龍　溫　178
龍華の三黜三赦　127
龍溪性潛　193, 194, 197
龍統元棟　198
龍蟠松雲　188, 193
兩大師　62
兩部大經　32
了庵慧明　123
了　吽　166
了　運　106

了翁道覺　197
了　海　134
了　海　176
了　學　164, 168
了　鑑　113
了閑上座　114
了　曉　133, 162
了　源　134
了　宏　103
了　實　132, 166
了　性　160
了　專　166
了　的　163
了堂眞覺　119, 123
了　明　135
了　聞　167
了　也　168
良　意　160
良　慧　19
良　榮　131, 170
良　永　160
良　雄　142
良　賀　73
良　覺　96
良　覺　171
良　觀　104, 107
良　觀　170
良　義　169
良　曉　131, 132
良　慶　67
良　源　52, 60
良　光　170
良　興　19, 47
良　嚴　152
良　算　98, 99
良　順　132
良純法親王　163
良　緒　48
良　諝　50
良　照　171
良　盛　106
良　定　170
良　眞　64
良　禪　59, 140
良　崇　171
良　尊　74
良　諦　170
良　忠　105
良忠如隆　199
良　朝　170
良　澄　206
良　通　171
良　如　174
良　忍　72, 73, 80, 138
良　敏　11
良　敏　133
良　遍　85, 99, 100, 102, 104, 106
良　禎　95
良　哲　170
良　德　170
良　頓　170
良　辨　11, 18
良　明　67
良　勇　51

明極楚俊　110
明　算　58, 59, 140
明　寂　59
明州珠心　186, 190
明照尼　114
明　心　131
明　靖　63
明　詮　34, 38, 43
明　全　84, 92
明窓妙光　120
明　尊　66
明智大姉　114
明　澄　34
明堂正智　195
明　忍　159, 160
明　福　34, 41, 42
明　遍　98, 100
明峯素哲　114, 116, 117
明　祐　47
密　教　31
密教と顯教　31
密山道顯　190
三善清行　51
三輪大乘心　106
三論玄義檢幽鈔　101
三論玄義誘蒙　171
無因宗因　88
無外圓昭　120
無外義遠　94
無涯智洪　114
無學祖元　89, 90, 193
無關普門　86, 106
無吼笛　111
無　空　54
無　礙　167
無　紋　169
無極慧徹　123, 124
無極志玄　90
無準師範　85, 86, 89, 110, 193
無象靜照　89
無端祖環　115, 120
無　著　14
無著道忠　111, 183
無著妙融　120, 121, 124, 187
無底良韶　119
無得良悟　187, 193, 195
無　能　164, 171
無明慧性　88
無門慧開　89
無漏素崇　117
夢窓疎石　90, 112, 126, 147
宗像氏國　85
滅　宗　187
面山瑞芳　189, 192
茂林芝繁　122
模庵宗彭　124
木庵性瑫　193, 194, 196, 198
默玄元寂　195
默子素淵　187, 190
默室焉智　192
默照禪　95
默水龍器　184
木食上人　142
物　外　50

物外性應　122
物先海旭　183
本居宣長　209
文　雄　170
文　綱　16
門　鶴　113
門　周　165
聞庵道見　123
聞　證　166, 170

ヤ　行

野澤十二流　58
也　頼　192
柳生但馬守　181
約翁德儉　88
益　信　38, 39, 54, 55
益堂宗甫　186
藥師本願經　158
藥　寶　34
山崎闇齋　208
瑜伽戒　17
瑜伽論　17
瑜祇經疏　50
遊行上人　129, 179
由良法燈國師　89, 117, 105
惟慧道定　193
惟　尙　60
惟　暹　65
惟　命　65, 73
唯識三十頌　13
唯識東海傳　153
唯識同學鈔　98
唯識論討要記　166
唯識論略解　171
唯　心　101
唯佛是眞　4
唯　了　135
友　尊　159
宥　快　141
宥　海　66
宥　義　158
宥　信　142
宥　貞　157
祐　榮　157
祐　海　164
祐　宣　156
祐　崇　166
祐　全　164
祐　天　164, 167
祐　能　139
酉　岡　162
酉　仰　162
融　觀　74
融　源　140
融　存　96
融通念佛宗　72, 73, 74
猷　憲　51
涌　泉　162
餘　慶　35, 52, 66
楊岐宗　83, 87, 89, 193
楊宗智旭　183
陽　生　52
庸山景庸　181
葉上の大釋迦　23

辦道話 92
菩薩戒作法 113
菩提院贈僧正 45
菩提心論 32
菩提仙那 15, 18, 22
補陀落迦山寺 83
法　雲 14
法雲明洞 195
法　緣 35
法　海 12
法覺佛慧禪師 122
法　護 162
法　載 16, 17, 46
法濟大師 35
法　秀 48
法　住 159
法　定 6
法　進 16, 37, 46
法　碩 157
法　全 49, 54
法　銑 21
法　藏 18
法　藏 61
法　澤 169
法燈國師 89
法　度 145
法　幢 177
法　然 65, 74, 78, 81, 138, 178
法然房源空 74
法明房良尊 74
法　譽 133
法隆寺 5
法　霖 175, 176
法　礪 17
法華經 29
法華一揆 143
法華三大部 26
法華宗 68, 127, 128
法華秀句 27
法華滅罪之寺 22
法華律 205
法　性 140
法性宗 13
法相宗 13, 37, 97
法相宗章疏目錄 45
法相燈明記 41
法相二卷章 99
法身大日如來 32
寶慶記 93
寶　景 177, 178
寶珠護國禪師 111
寶洲道聰 197
寶門方 141
豐　安 17, 34, 46
豐　藝 47
鳳山等膳 122
鳳　潭 149, 152, 168
峰　宿 54
峰　禪 54
報恩編 187
邦　諫 134
抱　質 176
北京の三大會 60
北京律 101, 103
北寺傳, 興福寺傳 9, 15, 44
北宗禪 25
北嶺教時要義 152
牧翁性欽 127
牧翁祖牛 181
穆　算 66
細川道契 184
本有圓成佛心覺照國師 88
本　覺 172
本覺法門 61, 67, 150
本地身說法 141
本地垂迹 11, 70
本寺派 95
本　純 150
本尊義 175, 205
本朝高僧傳 184
本如實性禪師 111
本　佛 172
本妙廣鑑禪師 183
本　無 103
翻梵語 38
梵學津梁 162
梵淸本 123
梵網經 15, 28, 93, 169, 172
梵網經略抄 93
梵網古迹記鈔 108
梵曆策進 173

マ　行

眞人玄開 17
磨光韻鏡 170
松ケ崎談林 199
末寺派 48
末法初年 71
萬安英種 188
萬　回 191
萬仞道坦 93
萬法唯心, 心外無別法 194
萬　無 166
萬葉集代匠記 162
卍元師蠻 111, 184, 197
卍山道白 118, 185, 186, 185, 190
滿　耀 37
彌　阿 129
彌陀直授の法門 73
彌陀和讚 73
彌勒感應抄 95
都天台, 京天台 66
妙應光國慧海慈濟禪師 91
妙　觀 131
妙喜宗績 182
妙　實 127, 128
妙　立 149, 150, 151
妙　蓮 103
明　一 40, 70
明　雲 84
明　懷 44
明慧上人 96, 98, 104
明　快 64
明　久 43
明　空 160
明　憲 43
明　賢 103
明　光 134

如　導　135
如　寶　16, 46
如　無　39
仁王般若經疏　13
仁　海　57, 58, 62
仁　空　137
仁　斅　39
仁　秀　19
仁岫宗壽　111
仁叟淨熙　116, 188
仁　辨　64
忍　基　17, 46
忍　空　103, 106
忍性菩薩　104, 107
忍　徵　166, 167, 168
忍律法師　103
涅槃會　19
念劫融卽，十方結通　20, 24
念禪一致　194
念佛寶號觀心偈　62
然阿良忠　76, 80, 130, 131
然　純　160
拈笑宗英　124
能　化　155
能化六代　175
能　眞　66
後七日の御修法　31, 153

ハ　行

馬祖道一　26, 83, 86, 190
梅巖義東　115
梅山聞本　119, 120, 121, 122
梅峰竺信　185, 188
白隱慧鶴　111, 182, 183
白　道　166
白峯玄滴　185
白　木　130
伯珣照浩　199
泊　船　183
柏庭善月　85
跋山運步　187
八宗綱要　95
拔隊得勝　89
林羅山　196, 208
範　憲　100
範　源　65, 70, 77
範　守　67
範　俊　40, 58
範　譽　166
幡隨意　166, 167, 168
盤珪永琢　181, 192
費隱通容　193, 195
祕藏寶鑰　31
祕密莊嚴記　102
聖，非事吏　154
百丈懷海　28
百　拙　198
百癡元拙　198
百法問答鈔　45
標　瓊　46
平田篤胤　209, 212
廣澤流　55, 56
敏　覺　36, 37, 100
普一國師　196
普勸坐禪儀　92, 114
普　機　47
普化宗　89
普光觀智國師　163
普濟善救　126, 189
普　寂　18
普　寂　153, 168
普　照　16, 17
普照大光國師　87
普峰京順　192
普　門　173
不借玄位　117
不受不施義　202
不　能　171
不聞契聞　92
不立文字教外別傳　94
扶　公　43
扶桑禪林僧寶傳　197
扶桑略記　74
芙蓉道楷　191
武溪集　183
風外本光　188, 189
復古道人　186
福　亮　7
藤井元彥　75
藤澤上人　129, 179
藤原惺窩　208
佛海慧遠　83
佛　猊　152
佛光壽傳　186
佛光禪師　90
佛國應供廣濟國師　90
佛國曆象篇　173
佛慈禪師　114
佛性通活禪師　123
佛性傳東國師　93
佛性論　157
佛體卽行說　76
佛智弘濟禪師　181
佛　通　188
佛　哲　15, 22
佛燈大光國師　88
佛法總府　92, 94
佛本神迹の本地垂迹說　12
佛立慧照國師　133
分科俊彥　158
平　祚　48
平　傳　42
平　智　38
平　備　38, 40
平　仁　35
平　忍　42, 47
平　燈　63
別源圓旨　92
別傳妙胤　110
別峯宗見　186
遍　救　65
遍　照　50
遍是宗法性　10
辨　阿　76, 81, 131
辨　覺　66
辨　曉　95
辯顯密二敎論　31
辯中邊論述記　157

內典塵露章　95
鐺冠上人　128
南英謙宗　121
南京律　103
南景宗嶽　181
南極壽星　124
南山宗　16, 17, 102
南山道者　187, 192
南寺傳, 元興寺傳　9, 15, 44
南宗禪　26
南都の三大會　60
南浦紹明　87, 88, 90, 116, 193
南北戒律勝劣遺僞興眞章　44
南門僧正　179
二十四流　91, 110
二祖慧可　8
二類各生義　76
爾前, 迹門, 本門, 觀心　68
日本往生全傳　166
日本高僧要文抄　95
日本天台　61
日域無雙之禪苑, 曹洞出世之道場　114
日　印　127, 128
日　院　126
日　院　204
日　叡　126
日　圓　199
日　延　127
日　奥　201, 205
日　億　127
日　遠　200, 201, 203, 206
日　雅　205
日　學　127
日　觀　39
日　輝　206
日　球　200
日　經　154, 163
日　經　199, 202
日　境　204
日　堯　205
日　具　128
日　乾　200, 201, 203
日　賢　203
日　現　205
日　弘　203
日　珖　200
日　向　82, 126
日　講　202, 204, 205
日　興　82, 127
日　持　82
日　實　128
日　實　128
日　樹　203
日　秀　155, 156
日　充　203
日　重　200, 201, 202, 203
日　什　128
日　祝　128
日　述　204
日　純　128
日　生　199
日　昭　82
日　正　205

日　政　205
日　紹　202
日　詔　202
日　迢　206
日　靜　127, 128
日　常　128
日　乘　199
日　眞　128
日　親　115
日　心　205
日　進　126
日　進　203
日　新　200, 201
日　霽　128
日　惺　202
日　暹　203, 204
日　詮　200
日　善　126
日　禪　205
日　像　127
日　尊　199, 200, 202
日　存　28
日　諦　200
日　臺　126
日　脫　205
日　智　206
日　忠　202
日　頂　82
日　朝　127
日　鎭　128
日　禎　199, 200
日　典　202
日　奠　204
日　統　199
日　統　202
日　透　206
日　豐　205
日峯宗舜　88
日　目　127
日　明　128
日　明　205
日　祐　200
日　譽　156, 157
日　陽　199
日　隆　128
日　遼　203
日　領　203
日　臨　206
日　輪　127
日　蓮　80, 127, 107
日蓮宗　80, 126
日　朗　82, 127, 128
若　霖　175
入阿毗達磨論　157
入　圓　101
入　尊　40
入唐求法巡禮行記　49
入唐八家　38, 51, 53, 54, 58
柔　遠　176
如一國師如空　131
如　覺　135
如　周　160
如春尼　173
如　信　78, 134

天　目　127
天文法難　129
天祐思順　89
典　海　172
田翁牛甫　185
傳光錄　113, 114
傳長老　147
傳法師　49
渡　船　130
鳥羽僧正　40, 58
等　熙　133
等　定　20, 47
等　空　157
桃水雲溪　193, 195
棠林宗壽　182
洞山語錄　190
洞宗通翼　191
洞水月湛　189
洞門劇談　188
東域傳燈錄　45
東　海　183
東海義易　116
東　岳　176
東暉良聞　169, 170
東溪智門　183
東皐心越　191
東國高僧傳　197
東山湛海　86
東寺の三寶　141
東照大權現　148
唐招提寺，招提寺　16
東征傳　17
東漸宗震　181
東大寺　21, 96
東渡諸祖傳　197
東塔宗　17
東南院　35, 100, 101
東　密　32, 55
東明慧日　91
東陽英朝　111, 181
東陽德輝　110
東瀾元澤　198
東陵永璵　91
東嶽圓慈　182
道　雄　47
道　快　100
道　觀　77
道　岸　16
道　義　47
道　鏡　25
道鏡慧端　181
道　慶　36, 100
道　元　44, 78, 81, 89, 91, 92, 113, 121, 131, 188
道　玄　102
道　御　105
道　光　15
道　光　131
道　光　168
道光普照國師　93
道　慈　7, 30, 33
道者超玄　192
道　昭　8, 83
道・照　106
道　照　106, 141
道　昌　34
道　性　135
道　性　95
道　靜　46
道　深　2
道　邃　26, 68
道叟道愛　119
道　藏　14
道　詮　34
道　宣　16, 17
道　璿　15, 18, 25, 46, 83
道　忠　16, 49
道　範　140
道　寶　100
道　昉　83
道密禪智　186
道　明　101
道　瑜　155
道　融　15
導　論　38
動　潮　159
特芳禪傑　111, 183
匿　嶽　150
得　一　42
德　一　27, 41, 42
德　溢　42
德　圓　51
德翁良高　185, 186, 195
德川光圀　162, 192
德嚴養存　190
德水慧性　186
德　寧　94
德　本　172
德　門　168
德　龍　178
獨庵玄光　185, 187, 191, 192
獨庵獨語　188
獨吼性獅　199
獨秀乾才　111
獨照性圓　194
獨湛性瑩　195, 198
獨本性源　194, 198
獨文淨炳　198
富永仲基　208, 209
虎佛通　188
頓　阿　179
頓　慧　177
頓　成　178
呑　海　129
呑　龍　164
曇　慧　2
曇　希　113
曇侍者　87
曇　寂　157
曇　照　103
曇　徵　6
曇　龍　176

ナ　行

中井竹山　208
中井履軒　208
中川ノ實範　58, 103
中臣鎌足　7

智　光　7
智　轂　173
智　周　9
智　舜　101, 105
智　聰　166
智　藏　7
智　暹　175
智　泉　159
智通，智達　8
智　洞　175
智燈照玄　186
智鳳，智鸞，智雄　9
智　幽　150, 151, 169
智　耀　162
癡　空　152
癡絕道冲　85
治國策　128
竺庵淨印　198
竺印祖門　184
竺僊梵僊　110
竹居正猷　125
竹窓智嚴　123
中觀　101
中巖圓月　110
中古天台　63
中　信　73
中統臨空　133
中道聖守　101
中，百，十二門論　8
中峰明本　110
中論疏記　33
仲　圓　137
仲　應　54
仲翁守邦　125
仲　繼　37, 38
仲　算　42
忠　慧　19
忠　慧　46
忠　快　64
忠　濟　64
柱山義鐵　186
註本覺讚　61
長　意　50, 51, 63
長　宴　63
長　快　160
長　覺　141
長　賢　34
長　豪　65
長　西　77, 78, 95
長　歲　47
長髮長爪　194
長　保　39
長　譽　142
長　耀　66
長　吏　50
長　朗　19, 38
澄　一　191
澄　睿　46, 47
澄圓菩薩　132
澄　海　117
澄　憲　97
澄　豪　64, 138
澄　豪　65
澄　心　35

澄　禪　101, 166
朝　遍　160
潮音道海　192, 194, 196
奇　然　35
勅修御傳　131
勅修御傳翼讚　171
珍　海　36
珍　玄　67
珍山源照　114
珍　仁　65
鎮西派　76, 80, 130, 131
鎮西派の八祖　132
鎮　朝　52, 61
陳元贇　205
通翁鏡圓　87
通幻寂靈　115, 119, 123
通受と別受　161
通路記　95
恆明親王　130
貞　安　154
貞　允　107
貞　圓　98
貞　稚　98
貞　覺　98
貞觀政要　147
貞　紀　161
貞　慶　98, 99, 102, 104
貞　憲　98
貞　弘　99, 100
貞　極　165
貞　禪　100
貞　把　162, 170
貞　敏　100
貞　隆　99
鐵　關　171
鐵眼道光　186, 194, 196, 209
鐵眼版大藏經　197, 209
鐵牛道機　196
鐵山士安　115
鐵心道印　192, 193
徹翁義亨　88, 181
徹山旨廓　117, 118
徹通義介　94, 112, 117, 118
佶長老　147
天庵玄彭　124
天鷹祖祐　125
天應大現國師　88
天　海　62, 147, 207
天海版大藏經　148
天巖宗越　121
天　啓　162, 163
天桂傳尊　185, 187, 188, 189, 191
天湫法澧　192
天眞自性　126, 189
天巽慶順　124
天台宗　25, 48, 60, 61, 137
天台宗義集　49
天台法華集　27
天長勅撰の六本宗書　31, 34, 37, 46, 47, 48
天童正覺　91
天童如淨　92, 113, 121
天平寫經　21
天明の三哲　159

太元孜元 182
太原崇孚 111, 183
太源宗眞 115
太初繼覺 120, 121
太 素 26
太素省淳 122
太容梵淸 123
太宰春臺 170
大庵須益 125
大 雲 152
大 慧 51
大 瀛 175
大 圓 172
大圓廣慧國師 157
大圓寶鑑禪師 181
大雅崇匡 111
大戒決疑篇 151
大 岳 120
大覺禪師 88
大 含 178
大機行休 186
大休惠昉 182
大休玄密 186
大休宗休 111
大休正念 89
大愚良寬 187
大空玄虎 123
大 玄 164
大 幻 157
大現宗猷國師 115
大元帥法 58, 161
大光寂照 187
大興正法國師 102
大興心宗禪師 111
大光普照國師 193
大綱明宗 124
大慈普應國師 196
大寂常照禪師 111
大宗正統禪師 194
大成照漢 199
大乘院 39, 44, 100
大乘三論大義鈔 34
大乘成業論 157
大乘掌珍論 157
大乘心 106
大乘傳通要錄 99
大乘法相硏神章 37
大乘律 17
大成經破文答釋 196
大拙祖能 111, 193
大蘇智珍 183
大僧正 11, 53, 56, 57, 61, 97, 100, 127, 133, 135, 148, 153, 157, 158, 164
大藏對校錄 166
大 智 116
大智禪師偈頌 116
十中一介 122
大通寅察 185
大通智勝國師 111
大通融觀 74
大徹宗令 115, 120
大道圓鑑禪師 182
大道眞源禪師 111

大日經 29, 32
大日經指歸 50
大日經要義鈔 103
大日能忍 76, 83, 84
大 梅 161
大眉性善 199
大悲闡提の菩薩 11
大悲菩薩 104, 108, 161
大毗盧遮那住心鈔 59
大 佛 22
大佛頂經 33
大菩薩 11
大 寶 152
大鵬正鯤 158
大年祥椿 122
大路一邉 122
泰 演 33, 34, 37
泰 州 198
泰叟妙康 124
兌長老 147
臺 山 164
諦 濡 162
袋中上人良定 169, 170
台 密 32, 55
台密十三流 63, 64
託 阿 130
澤庵宗彭 88, 147, 181, 182
卓 玄 158
卓州胡僊 182
立川流 141
達觀曇顯 86
達磨宗 76, 83
谷時中 208
谷 流 63
丹霞子淳 191
丹嶺祖裏 193, 195
丹嶺本仙 186
湛 慧 168, 169
湛 睿 95, 96
湛 海 102
湛 秀 45
湛 澄 170
湛堂慧淑 168
淡 海 183
探玄記 21
坦 山 188
彈選擇集 77
檀 通 164
檀那(院)流 62, 65, 67
檀林淸規 163
斷橋妙倫 86
和 空 149, 174
智慧輪 50, 54
智 璟 46
智 圓 67
智 淵 63
智 演 132
智翁永宗 125
智 海 66
智 愷 47, 48
智 鏡 102, 103
智 憬 46
智 暉 157
智 慶 77

旃崖奕堂　184, 188
專　英　99, 100
專　海　135
專　空　135
專　譽　155, 156, 157, 158
宣　敎　11, 40, 41
宣　成　178
宣　明　177, 178
宣　瑜　107
宣　融　34
詮　慧　93
遲　賀　62
川僧慧濟　122
選擇本願念佛集　75, 77
全　海　66
全　宗　139
善　議　26, 30, 33
善　謝　41
善　珠　37, 39
善　俊　46
善　性　134
善信尼　15
善　智　135
善　鎭　136
善　入　135
善　如　134
善無畏　26, 30
善　鸞　78, 134
禪　雲　20
禪　慧　102, 104, 106
禪戒鈔　93
禪　觀　104
禪　宗　82, 90
禪　爾　95, 103, 106
禪　仁　67, 73
禪　忍　106
禪　峰　171
禪　芳　166
禪林象器箋　184
禪林甑瓦　191
漸　安　34
祖　海　167
祖　機　113
祖　繼　116
祖眼元明　198
祖　山　167
祖　洞　162, 163
祖忍尼　114
祚　乾　35
祚　玖　113
祚　棟　113
蘇山玄喬　182
蘇悉地經　32
蘇悉地經疏　49
相　應　50, 61
相　實　63, 137
相　俊　102
相部宗　16, 17
僧　叡　176
僧　谿　170
僧　孝　169
僧　堂　92
僧　那　8
僧　兵　61, 65

僧　敏　172
僧　樸　176
僧　鎔　176
僧　朗　14
曹源滴水　186
曹山語錄　190
曹洞宗　83, 91, 95, 112, 114
曹洞禪　114
曹洞二師錄　189, 191
宋　吾　113
宋版大藏經　35, 83
總國分寺　22
總國分尼寺　22
總　持　107
總　融　96, 106
聰　補　163
綜藝種智院　31
桑葉和歌抄　170
草山集　206
草山律　205
崇芝性岱　123
造　玄　54
象山間厚　187, 188
增　賀　62
增　俊　58
增　命　51, 56, 67
增　祐　42
增　利　41
藏　俊　45, 97, 104
卽庵宗覺　124
卽休契了　110
卽身成佛　32, 8
卽非如一　195, 198
息　庵　169
俗諦，眞諦　8, 14
續日本高僧傳　184
續扶桑僧寶傳　197
尊　意　51, 63
尊　應　13, 37
尊　海　66, 80
尊　觀　131
尊觀法親王　130, 179
尊　慶　158
尊　玄　101
尊　照　163
尊　信　100
尊朝親王　139
尊　珍　66
尊　任　179
尊　如　158, 159
尊　祐　158, 159
尊　隆　102
損翁宗益　189
存　易　170
存　應　163, 168
存　覺　134
存　牛　133
存　冏　133
存　貞　163, 166
存　如　134

タ　行

他阿眞敎　80, 129, 130
多念義　77, 168

眞　慧　38
眞　慧　135
眞　璟　46
眞　圓　107
眞　雅　47, 53, 54, 55
眞巖道空　122
眞　喜　42
眞　教　136
眞　空　85, 101, 104, 105, 106
眞　空　136
眞　光　129
眞　興　38, 42, 43
眞　皎　53
眞　蛟　150
眞言宗　25, 52, 139
眞言宗教時問答　29
眞言聖　154
眞言律宗　160
眞　濟　53
眞　宗　78, 128, 134, 178
眞　俊　102
眞　照　103
眞　性　105, 106
眞　政　160
眞　紹　38, 53, 54
眞　讓　160
眞心要訣　99
眞　盛　138
眞盛派　138
眞　智　135, 136
眞　超　206
眞　如　53, 54
眞　然　41, 53, 55
眞　能　136
眞　範　43, 97
眞　佛　79, 134, 135
眞　辨　140
眞　法　46
眞　譽　167
眞　隆　54
眞　流　151, 152
信　圓　97
信　圓　102
信　海　158
信願上人　99
信　行　38
信　空　107
信　慶　45
信　岡　170
信　憲　98
信　堅　140
信　弘　141
信　證　58, 59
信　照　108
信　增　67
信　尊　66
信　忠　100
信　日　140
信　倍　169
信　譽　170
親　緣　106
親　證　161
親　宥　47
親　鸞　78, 81, 134, 136, 178

新義派　59, 141
新比叡山　139
新別處　160
審　祥　18, 46
尋　慧　105
尋思鈔　98
尋　禪　52, 62
尋　範　97
神　叡　13
神機獨妙禪師　182
神　泰　7
神　日　56
神本佛迹の本地垂迹說　70
深　幸　95
深　勵　177, 178
遂翁元盧　182
遂業の三會　60
垂迹化身　11
翠巖眞　183
翠微閣堂　191
翠　峯　198
隨　慧　177
隨　巖　167
隨　波　164
瑞峯大奇　186
菅原爲長　86
崇　傳　147
崇梵大師　36
住吉明神　125
世　親　13
青鷄原夢語　191
西山派　77, 79, 133, 137, 139
西澗子曇　110
西笑承兌　147
清拙正澄　110
清　範　43
誓　海　134
誓　譽　170
誠拙周樗　133
勢　譽　154
石屋眞梁　121, 123, 125, 190
石　泉　176
石叟圓柱　122
石牛天梁　185
石溪心月　89
石帆惟衍　110
石田法薰　85
石頭系　190
拙　庵　183
拙庵德光　83
拙堂敬　183
雪巖祖欽　110
雪江宗深　88
雪　巢　198
雪峰亙信　192
殺生石　120
千　觀　67, 73
千巖元長　110
千丈實巖　189
千百億の小釋迦　23
千呆性俊　198
仟　遍　142
仙崖(義梵)　183
仙岩元嵩　199

性 海 176
性 空 62, 63, 72
性 慶 151
性 盛 158
性 心 131
性 信 56
性信房 134
性 善 135
性禪大姉 114
性相學 15, 159
性 泰 46
性 徵 168
性 曇 135
性 瑜 107
證 覺 106
證 觀 67
證 義 67
證 空 76, 79, 81, 102
證 玄 104, 105
證 眞 65, 76
證道歌直截 191
證 入 77
證 如 136
政 海 65
政 春 76
承 信 101
承 誓 60
承 仙 102
承 兌 147
承 澄 64
承 踰 66
尙 祚 140
尙 寧 170
淸 陰 183
淸泉禪師 89
淸凉澄觀 21
松岸旨淵 116, 117
松 橋 95
松 朝 40
松 風 164
春屋宗能 124
璋 圓 99
笑翁妙堪 85
笑堂常訢 121
霄岩長通 113
昌 海 39
衝天元統 199
聲 明 53, 73
韶陽以遠 124
定庵殊禪 125
定 慧 7
定 慧 132
定慧明光佛頂國師 182
定 海 58
定 海 97
定 觀 54
定 顯 135
定 玄 133
定 賢 113
定 好 43
定 算 99
定 舜 102, 103
定 昭 36, 39, 43
定 照 11
定 照 77
定 誓 65, 73
定 順 135
定 專 135
定 暹 95
定 然 107
定 賓 16
定 澄 43
淨 阿 129
淨 因 103, 106
淨因自覺 191
淨 音 77
淨 覺 107
淨 業 103
淨 空 159
淨 嚴 16, 162
淨 禪 101
淨 藏 51
淨土源流章 95
淨土義私記 36
淨土敎 21
淨土考原錄 167
淨土三部經 75
淨土宗 74, 31, 178
淨土眞宗 78, 178
淨土眞宗最初門 133
淨土變 23
淨 法 105
淨名玄論略述 7
常 魏 17, 45, 46
常 久 67
常 曉 58
常 濟 60
常 騰 19, 40
常 樓 39
成 雄 142
成實論 14
成實論疏 14
成 眞 107
成 尊 40, 44, 58, 140
成 寶 36
成唯識論 9, 13, 38
成 譽 164
乘 心 106
乘 專 135
乘 範 100
靜 運 65
靜 觀 51
靜 嚴 66
靜 眞 63
靜 辨 107
靜 明 65, 66, 85
盛 海 66
盛 源 171
盛 全 139
上古天台 63
心 阿 129
心 越 191
心 賀 65, 66
心 海 102
心光默丹 186
心 聰 66
心地覺心 89
心 蓮 102

樹　朗　37
儒　者　49
受不施義　202
壽　遠　34
壽　廣　41
壽　長　54
壽門方　141
壽　靈　20
宗　印　88
宗　慧　58
宗　叡　53, 54, 55, 56
宗　悅　162
宗　緣　113
宗　圓　131
宗鏡錄　85
宗　性　95, 101
宗峰妙超　87, 88
秀　慧　101
秀　翁　155
秀　寬　168
秀　嵓　161
秀　算　158
州安秀彭　124
周鼎仲易　122
十重禁戒四十八輕戒　28
十住心論　31
十　聲　131
十達國師　95
十二門論疏　105
十二門論疏抄　105
十六問通釋　175
重　喜　101
重　源　84, 96, 160
重　禪　101
重　譽　36
從　覺　134
縮象儀　173
脩　然　26
出定後語　209
春應禪悅　182
春屋妙葩　91
春嵒慧晟　123
春　德　41
春　福　46
春　明　43
俊　才　95, 106
俊　正　159
俊　聖　129, 130
俊　盛　158
俊　嵓　78, 131, 101
俊　晴　140
俊　範　40, 65, 66, 80
俊　峰　170
俊　譽　141
俊　量　190
舜　昌　131
准　玄　174
准　秀　174
准如光昭　173, 174
順　繼　141
順　高　96
順　曉　26
順　證　135
順　性　105

淳　祐　54, 57
諸行非本願義　76
諸行本願義　78
諸宗教理異同釋　140
如仲天闡　120, 121, 122
生　觀　101
正　爲　106
正　義　19, 34, 38
正宗國師　182
正　進　20, 47
正　專　160
正燈圓照禪師　182
正法眼藏　93, 114, 123, 189, 190
正法眼藏隨聞記　93
正法眼藏註抄(御抄)　93
正法眼藏辨註　187
正法律　161
聖　一　46
聖一和尙　85
聖　惠　58
盛　海　66
聖　觀　131
聖　空　156
聖　慶　36, 100
聖　冏　132
聖　憲　141, 155
聖　賢　58
聖　兼　100
聖　實　100
聖　守　101
聖　守　104, 105
聖　昭　64
聖　尋　101
聖　禪　101
聖　聰　132, 133, 162
聖　達　79
聖　忠　101
聖德太子　2, 24, 27, 127, 95, 166
聖　然　105
聖　寶　35, 38, 47, 54, 55, 56
聖　寶　152
聖　瑜　66
聖　瑜　155
聖　融　66
照　慧　106
照　遠　107
照　源　137
照　玄　106
照　寂　101
照端祖舜　117
照　林　161
勝　慧　136
勝　覺　58
勝　虞　37
勝　賢　36
勝　算　66
勝　長　20
勝　超　45, 97
勝　範　63, 65
勝　辨　83
勝劣義　127
小閑藏知津　166
小乘律　17, 149
性　快　160

三諦圓融の說　28
三大部私記　65
三年八度の改鑄　22
三部假名鈔　133
三部假名鈔諺註　170
三要元佶　147
三論玄義檢幽鈔　101
三論玄義誘蒙　171
三論玄疏文義要　36
三論興起　105
三論宗　6
山家派と山外派　151
山寺の六流　64
山門と寺門　51, 52
算　了　105
四箇格言　81
四宗合一　27
四重興廢　68
四　聖　19, 24
四天王寺　4
四分律　17, 159
四分律宗　17
四明智禮　62, 149
四明の天台　102, 149
止惡門　17, 28
止　觀　26, 62, 68
止觀業　27
思　允　102, 103
思　敬　102
思　順　102, 103
思　眞　102
思　宣　102
思　託　16, 17, 46
思　蓮　104
志　玉　96
志　忠　17
師阿安國　129
師　蠻　197
指月慧印　189, 191
指方立相　194
子　練　176
芝崗宗田　122
斯道紹由　115
至道無難　181
自　空　130
自　恕　193
時　宗　78, 80, 129, 154
慈　威　138
慈　雲　20
慈　雲　160
慈雲尊者　161
慈雲妙意　89
慈　圓　76, 77, 78, 102
慈恩大師基　14
慈岳道琛　198
慈　觀　134
慈　空　134
慈　訓　19, 40
慈　源　85
慈眼大師　62, 147, 148
慈　濟　53
慈　濟　104
慈　昌　163
慈　心　131

慈　信　100
慈眞和尙　107
慈　忍　62
慈　忍　160
慈　寶　37, 70
慈門公　167
慈麟玄趾　169, 190
直翁德擧　91
直指玄端　187
直指人心見性成佛　94
七朝帝師　90
實　懷　106
實　慧　52, 54
實　敎　101
實　玄　98
實　算　99, 100
實山永秀　124
實　舜　107
實　乘　103
實　信　106
實相上人　106
實　尊　97
實傳宗眞　181
實　忠　19
實　如　136
實　範　58
實　敏　34
實峰良秀　115, 120
實　那　198
遮那業　27
釋摩訶衍論　33, 34, 41
綽　如　134
寂　慧　132
寂　圓　112, 113
寂　嚴　162
寂室元光　88
寂　昭　62
寂　證　105
寂　如　174
主　恩　43, 45
主　眞　153
手　定　162
守　一　103
守　一　171
守　印　37
守護國界章　27
守護國家論　81
守正護國章　204
守　眞　85
守　脫　152
守　寵　38
守　朝　42, 43
守澄法親王　148, 149
守　敏　34
執空と體空　10
修　榮　18, 46
修　圓　34
修　圓　41
修二會　19
珠嚴道珍　116, 117, 118, 185
珠　琳　133
須彌山儀圖　173
授翁宗弼　88
樹　慶　100, 105

公　圓　76, 92
公　緣　98, 99
公　海　148
公　嚴　177
公　慶　96, 186
公啓法親王　151
公遵法親王　151
公　範　39
公辨法親王　150, 185
皇　圓　74, 77
皇　覺　65, 70, 74
皇　慶　63
光　宗　138
光　周　113
光　勝　72
光　定　49, 51
光　信　12
光　智　48
光　影　160
幸　西　77
幸　尊　107
幸　範　66
廣　海　66
廣　勝　105
興山上人　142
興　昭　41
興正菩薩　105, 108, 160, 161
興禪記　89
興禪護國論　84
興禪大燈國師　88
興　智　47
興　儔　191
興福寺傳, 北寺傳　9, 15
講演法華儀　50
講　師　176
向阿證賢　133
亨隱慶泉　122
綱　嚴　134
洪嚴慧範　183
康　濟　51
好　子　205
孔子家語　147
互　信　192
功　存　175
孝　忠　42
弘德圓明國師　114
江祕行者　26
高外全國　187
高喜觀　160
高　信　96
高泉性澂　197, 198
高祖と太祖　114
高　湛　108
高　辨　84, 96
高峰顯日　90
高野八傑　140
高野聖　139
高　麟　168
皓　林　183
豪　海　66
豪　盛　139
豪　溯　173
恆　景　16
恆　寂　53

杲堂元昶　198
杲　寶　141
杲　隣　53, 54
國　阿　130
國分寺　21, 112
國分尼寺　21
國寶, 國師, 國用　27
兀庵普寧　86, 89, 90, 193
金光明四天王護國之寺　22
金剛智　26, 30
金剛頂經　29
金剛頂經疏　49
根本因明師　34
根本說一切有部律　159
根本中堂　26
勤　性　105
勤　操　26, 30, 33, 34
勸　修　66
嚴　覺　36, 58, 103
嚴　算　65, 73
嚴　俊　104
嚴　智　46
嚴　如　178
欣　西　103

サ　行

左學頭　154
嵯峨僧都　39
佐田介石　173
作　阿　130
作善門　17, 28
座　主　49, 50
坐禪次第　96
坐禪用心記　114
西　阿　77
西　岸　206
西　吟　174
西　迎　106
西方集　37
最勝王經音義　13
最　澄　25, 37, 48, 49, 51
載　榮　34
載　寶　41, 47
載　寶　53
濟　信　56
濟北集　86
災難退治鈔　81
摧邪輪　96
在仲宗有　124
三一權實論　27, 28
三戒壇　16
三界義略解　171
三經義疏　3, 95
三教指歸　30
三光老人　189
三業惑亂　175
三國傳燈記　97
三國佛法傳通緣起　95
三時教判　10
三聚淨戒　17, 161
三　修　39
三洲白龍　186
三聖二師　62
三千大千世界　23

顯　眞　35
顯選擇集　77
顯窓慶宇　121
顯　尊　106
顯　智　79, 136
顯　道　151
顯　如　137
顯　範　101
豎　通　160
憲　圓　98, 99
憲　靜　102
建　綱　113
建　撕　113
建撕記　113
賢　應　39
賢　璟　17, 40
賢　覺　58
賢巖禪悅　183
賢　源　45
賢首大師　13, 18
賢　俊　160
賢仲繁哲　123
賢　寶　141
元元唱和集　205
元亨釋書　86
元亨釋書索隱　166
元亨宗論　87, 88
元　壽　157
元政(シナ)　49
元　政　205, 206
元　佶　147
元　範　67
元祿の三空　150
玄　阿　167
玄　韻　157
玄　慧　88
玄　榮　35, 47
玄　叡　34
玄翁玄妙　120
玄翁心昭　119
玄　雅　106
玄　海　140
玄　覺　34
玄　覺　197
玄　鑑　51, 63
玄　慶　54
玄　公　103
玄旨歸命壇　69
玄　俊　139
玄　性　155
玄　昭　51, 63
玄　奘　8, 28
玄　心　134
玄透卽中　190
玄　日　48
玄　忍　107
玄　賓　40, 41
玄　昉　9, 11, 25, 39
玄　宥　155, 156, 157
玄　譽　155, 156
玄　耀　34
玄路統玄　116
玄樓奧龍　188, 189
現成公案　92

幻翁碩壽　119
原人論　181
源翁心昭　120
源翁禪師　120
源翁禪師傳　120
源　空　74, 96, 98
源　光　74
源氏物語　72
源　秀　107
源　俊　102
源　信　44, 62, 65, 72, 73, 138
源　智　75
源　仁　38, 53, 54, 55
源　鸞　134
還學生　26
還　無　166, 168
虛庵懷敞　84
虛谷希陵　110
虛堂智愚　87, 89, 94
虛空藏求聞持法　30, 34
子嶌先德　43
古月禪材　111, 183
古義派　59
古今集餘材鈔　162
古劍智訥　121
古　石　193
古先印元　110
古寶智璨　110
古林淸茂　97
巨　海　183
壺庵至簡　114
己心の彌陀, 唯心の淨土　172, 194
瑚海仲瑚　121, 189
孤雲懷奘　93, 94, 112, 113
孤峯覺明　89, 114, 121
虎　角　163
虎關師錬　86, 91, 190
虎巖淨伏　110
木幡義　106
吳雲法曇　192
悟溪宗頓　111, 183
五位顯訣元字脚　189
五敎章指事記　20
五家語錄　190
五家七宗　86, 190
五家辨正　190
五箇龍寺　11
五山十刹　91, 109, 110
五山の三傑　91
五時五敎　29, 152
五重相傳　132
五性各別說　14, 33
五大院先德　50
五臺山　83
五朝國師　138
吾寶宗璨　124
牛頭禪　26
護國三部經　6
護　法　13
護法集　188
護　明　162
護　命　37, 39, 54
公　伊　67
公　胤　92

鏡堂覺圓　110
鏡　忍　19
敎　尹　100
敎　懷　44
敎行信證文類　78
敎時問答　50
敎授戒文　93
敎　信　72
敎如光壽　137, 173, 174
行　應　182
行　居　103
行　賀　19, 40
行　基　10, 11, 37, 61, 97
行　空　78
行　嚴　64
行事鈔　16
行　信　12, 13
行　達　11, 13
行　人　142, 154
行　表　25
行　滿　26, 68
行　勇　84, 85
行　譽　52
堯　慧　136
堯　雅　156
堯　秀　136
堯　眞　136
巧　如　134
凝　然　95, 96, 103, 106
旭如蓮昉　198
玉浦宗珉　111
錦袋圓　197
俱舍論　15, 101, 159
究竟論補缺　33
口傳法門　65, 67, 82, 148
九品往生義略註　61
九品佛　165
九老僧　127
鞍部鳥　6
愚管鈔　76
愚　溪　182
愚谷常賢　116
愚極智慧　110
愚　志　7
愚　心　164
愚中周及　110
愚　底　133
愚堂東寔　181, 182
愚　咄　134
救世大士　197
空　海　17, 30, 34, 47, 50, 52, 53, 57
空花和歌集　170
空外心昭　120
空　照　160
空　心　162
空　晴　42
空　操　41
空　脫　166
空　智　103
空　佛　135
空　也　67, 72, 80
空　理　56
熊澤蕃山　196, 205

訓　公　133
个爾陰妄の一念　28
化霖道龍　195
華嚴一乘開心論　47
華嚴經　18, 29
華嚴宗章疏鈔及因明目錄　48
華叟正蕚　124, 188
華藏義曇　115
華藏世界　23
華臺上の本佛　23
解　阿　129
解脫上人　98, 99, 104
景　雅　96
景　戒　11
景川宗隆　111, 184
景堂玄訥　111, 184
慶　運　104, 106
慶　秀　133
慶　秀　138
慶　俊　33
慶　信　35
慶　祚　66, 67
慶　竺　133
慶　命　65
敬翁祖欽　117
敬　光　151
敬　首　167
敬　長　152
敬　天　152
敬　日　77
敬　法　133
繼　尊　104
契　中　64
契　沖　162
瑩山紹瑾　89, 113, 116, 117
瑩山清規　114, 185
經史莊嶽音　170
圭峰宗密　21
溪嵐拾葉集　93, 138
決定往生集　36
傑堂能勝　120, 121
月庵珖瑛　116
月　感　174, 176
月澗義光　186
月江宗鈍　183
月江正文　124
月珊古鏡　182
月舟宗胡　185, 187, 189
月舟宗林　188
月泉性印　123
月泉禪慧　183
月泉良印　119
月窓明潭　124
月　忠　33
月峯虎心　186
月　明　128
乾光元貞　186
乾坤無地卓孤笻　90
見　空　107
見　智　103
見　塔　101
顯　意　84
顯　慧　36
顯敎と密敎　31

覺 盛 99, 104, 106, 107
覺 晴 45
覺 澄 101, 104
覺 超 62, 65, 73
覺 如 78, 134, 135
覺 如 104, 107
覺 忍 152
覺 範 64
覺 鑁 36, 58, 59, 140, 106, 156
覺 遍 99
覺 法 57
覺 法 161
覺 瑜 78
覺 和 140
學 信 169
學 侶 142, 154
格 翁 134
格宗淨超 199
廓 瑩 165, 169
廓 山 154, 163
亟叟宗俊 124
梶井法親王盛胤 149
活 宗 188
瞎道本光 189, 191
川 流 62
觀 叡 76
觀 圓 96
觀經疏 75
觀經四帖疏傳通記 131, 206
觀 賢 54, 56
觀 算 41
觀 宿 47
觀 照 43
觀 照 101
觀 眞 48, 96
觀 心 62, 67, 82
觀心覺夢鈔 99
觀心本尊鈔 82
觀心要略集 62
觀 理 35
觀 勒 5
鑒 眞 13, 16, 25, 40, 49, 161
勸 學 175
寬 海 66
寬 空 56
寬 濟 157
寬 助 56, 57, 59
寬 信 36
寬 信 58
寬 朝 48
寬 朝 56
寬 遍 58
寬平法皇 55
寒嚴義尹 93, 115
堪 久 47
環溪惟一 110
關山慧玄 88
關三箇寺 119, 124, 184
關 通 167, 168, 169
關 堂 182
關東天台, 田舍天台 66
刊定記 21
看話禪 95
願 安 19, 40

願 海 134
願 曉 35
願生歸命辨 175
願 明 134
願 蓮 76
願極官慶 190
願極行彌 110
巖 宿 164
岸 了 167
喜 因 35
喜 海 96
喜 慶 52, 61
喜山性讚 122, 187
喜 純 113
基(慈恩大師) 8, 14, 28, 39
基 海 47
基 繼 39, 47
基 好 64, 84
基 秀 47
基 石 38
基 遍 47, 48
季雲永嶽 123
貴 屋 168
器之爲璠 125
起信論敎理鈔 96
起信論本疏聽集記 96
龜年禪瑜 111, 183
器朴論 130
義 尹 93, 115
義 雲 112, 113
義 淵 10, 11, 40
義 演 54
義 演 112, 105
義 演 153
義 介 93, 94, 112
義 海 51
義 海 101
義 敎 175
義 空 83
義 光 35
義 山 166, 171
義 準 188
義 昭 61
義 聖 19
義 眞 48, 54
義 眞(シナ) 49, 53, 54
義 瑞 151
義天玄詔 88
義 燈 168, 169
義堂周信 91
義 範 40, 58
儀 軌 32
宜默玄契 190, 191
逆翁宗順 122
經 圓 99, 100
經 賀 42
經 救 44
經 豪 93
經 豪 135, 136
經 譽 135
經 理 42
恭 畏 153
恭翁運良 89, 117, 118
鏡 慧 107

圓 宗 34
圓 證 19
圓 定 107
圓 照 44, 85, 95, 101, 103, 104, 105, 106
圓照本光國師 147
圓 俊 38
圓 晴 104
圓 禪 65, 73
圓 善 135
圓 智 171
圓 智 177
圓 超 48
圓 澄 49
圓 珍 29, 50, 51, 55, 67
圓 通 173
圓通大應國師 87
圓頓戒(圓頓菩薩戒) 26, 27, 69, 138, 150, 152
圓 耳 151
圓爾辨圓 65, 85, 90, 99, 106, 193
圓 仁 29, 49, 53, 55
圓 忍 160
圓滿本光國師 111
圓 律 105
延 幸 95
延 祥 37, 38, 42
延 昌 52, 61, 72
延 徹 35, 47
延 賓 42
延寶傳燈錄 184
延曆僧傳 17
鹽官齊安 83
厭 求 165
淵 月 103
小野流 55, 57
王 阿 130
狼玄樓 188
大原僧都 63
大原談義 75
應 其 142, 154
應 眞 135
應燈關三師 88
應和宗論 42
應和宗論記 44
往生卽成佛 79
往生要集 62, 72, 75, 138, 166
央山玄中 186
黃檗隱元 160, 185, 192, 193, 195, 196, 197, 198, 199
黃檗宗 192
黃檗版大藏經 197
黃龍宗 83
岡田如魄 171
荻生徂徠 169
音石僧都 38
踊念佛 73, 80
恩 覺 44
飲 光 161
穩 達 190
溫老宗興 116

カ 行

可 圓 168
可 透 151
珂 憶 165
珂 月 173
珂 山 165
珂 碩 165, 166
珂 然 165
加持身說法 141
嘉祥大師吉藏 7
華頂門跡 163
鵝湖大義 26
峨山慈棹 182
峨山紹碩 114, 115, 118
峨眉山 83
雅 緣 99
雅 眞 54
快庵妙慶 124
快 圓 160, 162, 166
快 雅 63
快 賢 162
快 壽 158
快川紹喜 111
快 全 141
快 存 169
快 尊 142
快道(林常房) 159
戒 行 17, 45
戒 賢 14
戒 定 153, 159
戒稱二門 138
戒 體 17
戒壇式 104
戒 如 99, 104
戒 明 33
戒律傳來記 46
海 應 159
海嶽宗奕 184
海水一滴 187
海 日 66
槐國萬貞 186
開目鈔 82
恢 龍 168
覺 阿 83
覺 晏 83, 93, 94
覺 因 158
覺隱永本 125
覺 慧 60, 63
覺 慧 78
覺 運 44, 62, 63, 65, 72
覺 雄 101
覺 海 140
覺 行 103
覺 慶 62
覺 憲 97, 104
覺 賢 161
覺 彥 160
覺 樹 36, 59, 100
覺 州 153
覺 淨 101
覺 靜 200
覺 俊 67
覺 心 98, 103
覺 心 80, 89
覺 信 43, 97
覺信尼 78

一　遍　79, 81, 129, 130, 180
一類往生義　76, 80
壹　演　53
壹　和　42
市　聖　73
逸　然　193
彌　女　78
因明大疏　45
因明入正理論　45
印　融　142
院　源　62
院　昭　64
院　尊　64
隱山惟琰　182
隱之道顯　186
右學頭　154
有　慶　35
有　嚴　104
有　辯　84
宇多法皇　56
雲　臥　168
雲外雲岫　91
雲巖道巍　198
雲山愚白　195
雲岡舜德　124
雲　晴　61
雲　雪　160
雲岫宗龍　124
雲甫全祥　181
運　昭　67
運　儆　157, 158
運儆藏　157
蘊　謙　192
慧　雲　159
慧　雲　176
慧　運　38, 53
慧　苑　21
慧　蓴　83
慧　灌　5, 6
慧休性機　195
慧球尼　114
慧　曉　59
慧　空　149, 176, 177
慧　堅　167, 168
慧極道明　196, 198
慧　山　46
慧　師　6
慧　慈　2
慧　沼　10
慧　儆　177
慧　信　97
慧　新　46
慧　深　140
慧　尋　63
慧心(院)流　62, 65, 67
慧　聰　2
慧　達　38
慧檀八流　65
慧　澄　152, 173
慧　珍　36, 100
慧篤善空　134
慧　忍　160
慧　然　177
慧　滿　8
慧　命　167
慧　猛　160
慧門如沛　193, 197
慧　亮　50, 60
慧　輪　7
慧　琳　177
慧林性機　195
惠　淵　63
惠　遠　205
惠　果　30
惠　宿　53
惠　俊　200
惠　談　105
惠　鎭　138
廻　心　85, 101
會　慶　140
懷　音　166
懷　鑑　94
懷觀大姉　114
懷　素　17
永　意　64, 73
永　緣　43, 45, 97
永覺元賢　195
永　嚴　19, 40
永　嚴　58
永　興　20
永祚の宣命　52
永　智　113
永　超　45
永平開山行狀建撕記　113
永平廣錄　93
永平衆寮箴規然犀　190
永平淸規　93, 113, 185, 190
永　辨　65, 66
英　岳　158, 159
英　弘　198
英仲法俊　126
榮　睿　13, 16, 17
榮　穩　48
榮　西　64, 81, 83, 84, 92, 96, 102
榮　眞　107
榮　朝　84, 89
睿　尊　86, 102, 104, 105, 106, 107
叡　空　74
叡　辨　172
悅巖不禪　192
悅山道宗　198
悅峯道章　198
奕　堂　188
圓　緣　44
圓應禪師　89
圓　快　100
圓戒國師　138
圓　基　77
圓機妙應禪師　183
圓　行　54, 56
圓　空　160
圓　憲　85
圓　玄　199
圓光大師　75
圓　慈　134
圓　實　106
圓　珠　102, 103
圓　修　49

納本

昭和二十六年一月十日　印刷
昭和二十六年一月十五日　第一刷發行

日本佛教概史

定價貳百八拾圓

著者　宇井伯壽

東京都千代田區神田一ツ橋二丁目三番地
發行者　岩波雄二郎

東京都西多摩郡瀧村根ケ布三八五番地
印刷者　山田一雄

發行所　東京都千代田區神田一ツ橋二ノ三　株式會社　岩波書店

落丁本・亂丁本はお取替いたします

本製・刷印堂化大社會式株

索　引

字音は大體吳音に據る．然し慣例のあるものは漢音其他に從ふ．特別の讀方のあるものも多分は普通の字音で配列する．

ア　行

阿　一　107
阿刀大足　30
雨ノ僧正　58
安　慧　50
安　遠　48
安　海　67
安　慶　63
安國寺と利生塔　111
安叟宗楞　124
安　潤　39
安　澄　33, 37
安　然　29, 50, 51, 152
安樂律　148, 149, 150, 152
案山吉道　128
以　一　113
以　貫　113
以心崇傳　147
以八上人存易　170
伊藤秀胤　161
醫王如來　107
惟　首　51
惟　象　26
爲霖道霈　188, 195
飯高談林　199
石川丈山　205
石淵八講　34
一　玄　168
一休宗純　88
一　向　130
一向一揆　137, 143
一向義　78
一山一寧　86, 110
一絲文守　181, 182
一字佛頂輪王經略義釋　50
一州正伊　124
一　定　56
一乘院　39, 100
一乘止觀院　26
一心戒文　49
一　線　191
一線萬回　191
一致義　128
一凍紹滴　181
一　鎭　130
一念義　76, 77, 78, 168
一念頓覺　8

佛教

佛教汎論 上卷 宇井伯壽著 A5判 定價五四五圓 六八〇頁

佛教汎論 下卷 宇井伯壽著 A5判 定價七五〇圓 四〇四頁

日本佛教史 中世篇之一 辻善之助著 A5判 定價四五〇圓 四七六頁

日本佛教史 中世篇之二 辻善之助著 A5判 定價四五〇圓 四六四頁

日本佛教史 中世篇之三 辻善之助著 A5判 定價四五〇圓 四五〇頁

日本佛教史 中世篇之四 辻善之助著 A5判 定價四七〇圓 四七八頁

日本佛教史 中世篇之五 辻善之助著 近刊

禪の論攷 鈴木大拙博士喜壽記念論文集 久松眞一編 A5判 定價二九六〇圓 三七六頁

岩波書店刊

請求番号

受入番号

○貸出期間は二十日以内
○転貸しないで期間内に御返し下さい
○左の場合は保証金で弁償しなければなりません
（1）図書を亡失、又は毀損した場合
（2）督促を受けてから十日以内に返さない場合

国立国会図書館